

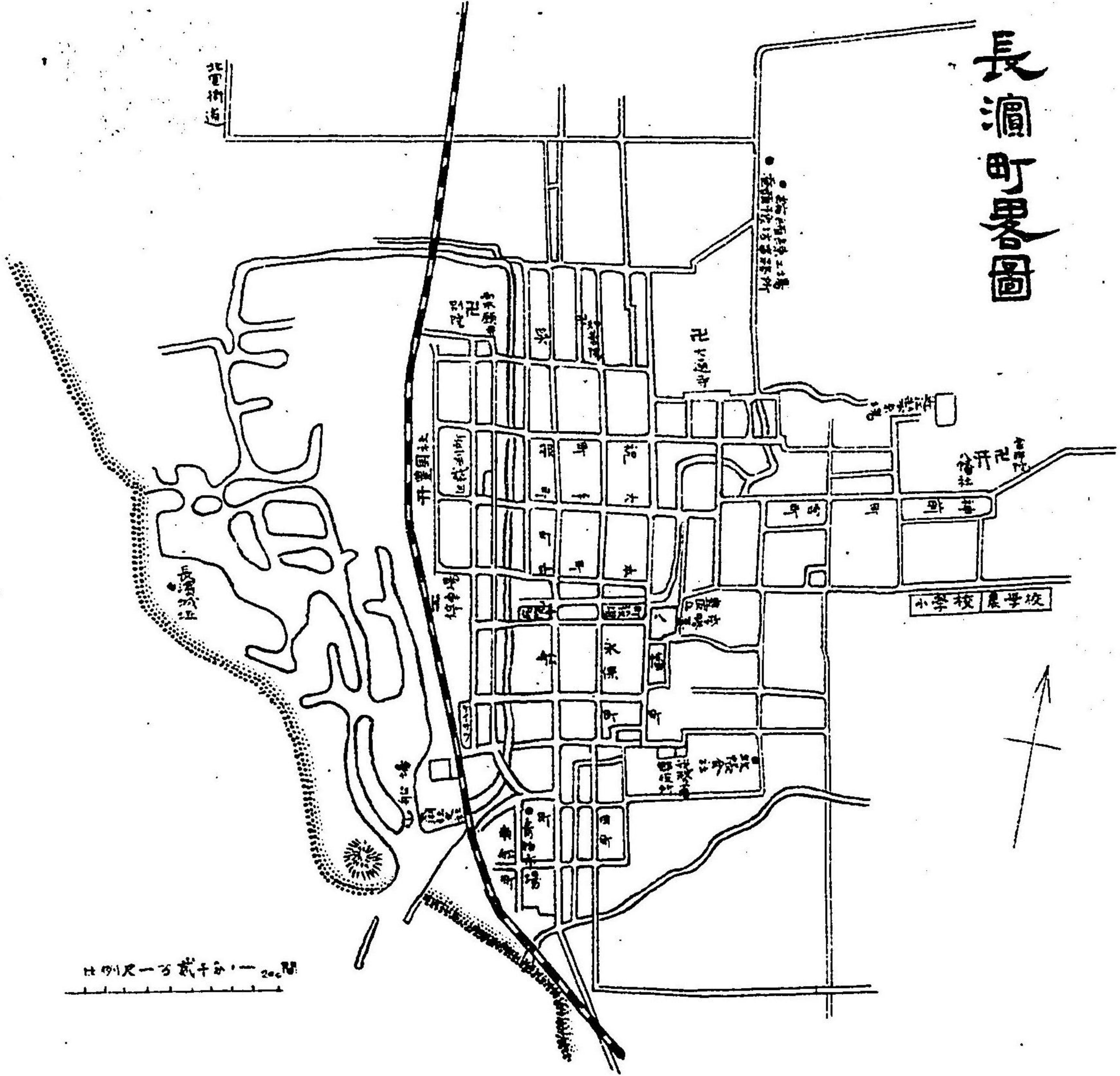
82  
715

長濱 遊覽 案内





# 長瀨町界圖



比例尺一萬五千分之一





長濱港

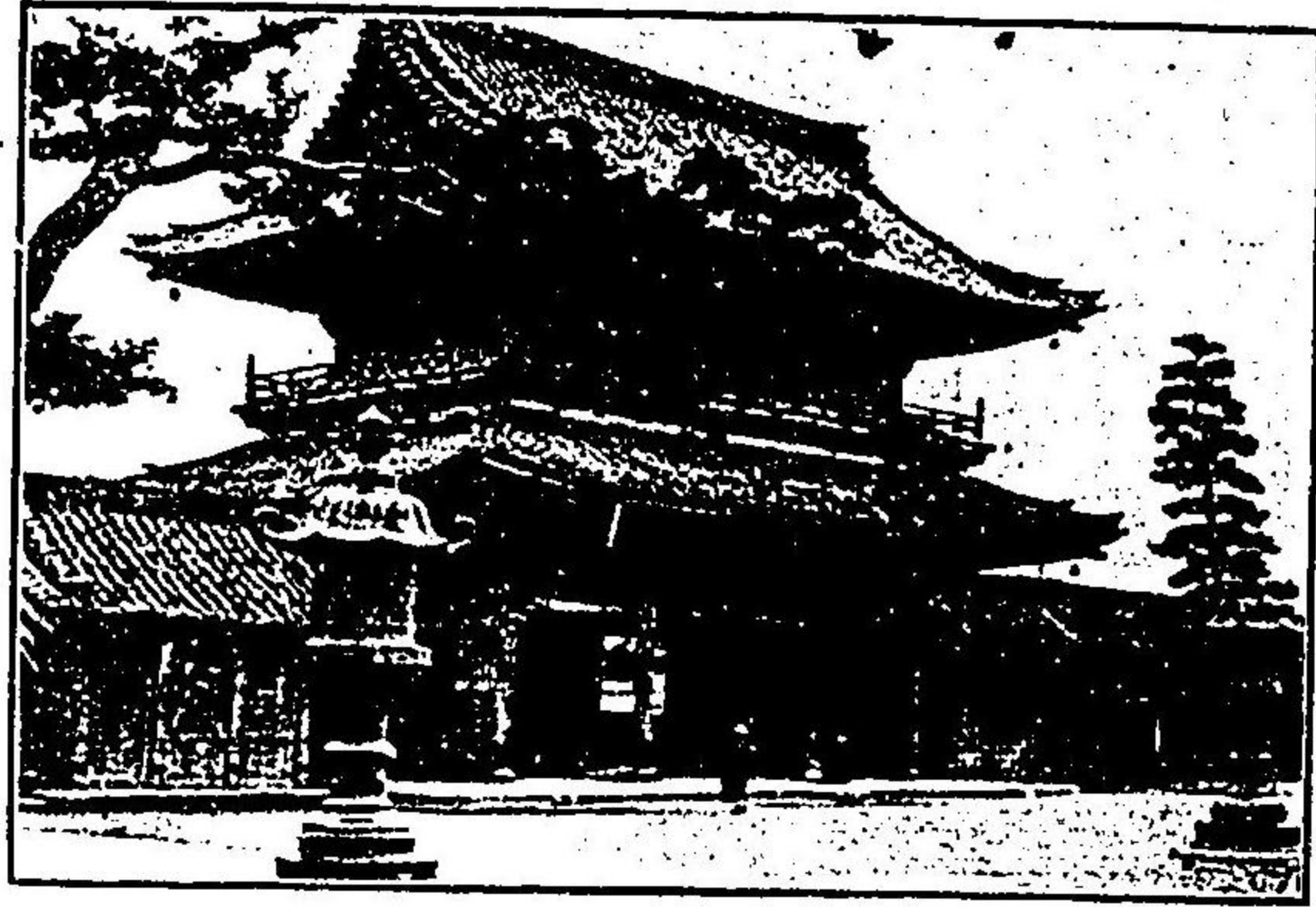


豊太閣城跡

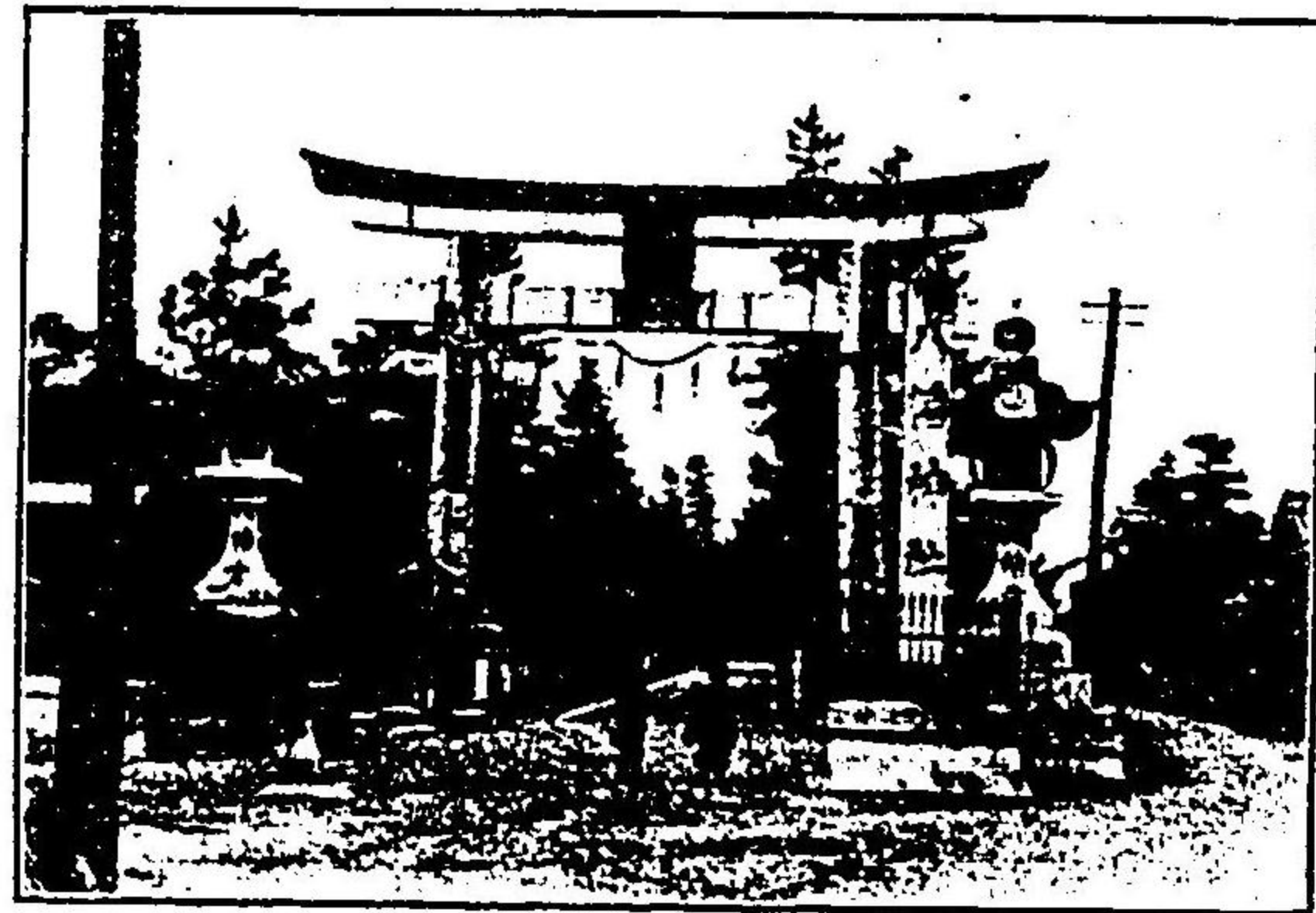


浅井長政善提所徳勝寺





大 通 寺 山 門



熊 八 幡 神 社



緒

言

長濱は今や北陸の要衝に當り商業頗る盛にして湖北第一の都邑縣下第一の商業地なり隨て各地より來る處の旅人日一日と多く増加せり而して此地や古來より名勝舊蹟乏しからざるにも拘らず之れ等を世に紹介するの資料少なきは甚だ遺憾なり予や淺學短才なりと雖も是等の有ゆる舊蹟を世に紹介し以て知るを旨とし目下最も時機に適したるの業にして又土地の繁榮上缺くべからざるの事と信じ茲に本誌の發行を企てたも所以なり記事内容に不満足の點なしとせざるも之れ全く巧運を避けて拙速に出でたる結果なれば乞ふ讀者幸に諒せられよ。

明治四十三年十一月

編者識

明治  
44. 7. 8  
丙寅



# 長濱案内誌

## ○沿革

長濱は往古今濱と稱せり舊記を案するに在昔本郡の西端湖岸に一小村落あり之を西濱と稱し細江南郷  
一村の二なりしが寛政中怒濤の爲に一村全く湖中に陥没せり後永正八年三月京極氏の臣上阪景重此地  
に岩を築き今濱と稱せり其後相傳へて治部太輔泰舜に至り淺井亮政に攻められ力屈して尾上に遁る依  
て錦織義忠笠原左之助落合主税介代りて此岩に居りしが淺井長政に攻められ終に降りぬ後元龜年中織  
田信長淺井氏を滅し河津三郡を羽柴秀吉に與ふるに當り秀吉岩を拓きて城となし茲に居城して之を長  
濱と改め淺井郡小谷城下より多く民家を移して市街となせしと云ふ現今伊部郡上郡等の町名あるは  
即ち淺井の村名を其儘用ひしが爲なり斯くて昇平日久しく住民多くは商業を營み戸口日に増加して大  
に舊觀を一變し其港の如きは初め下坂濱村にありしが通商の隆盛なるに及び其位置の不便を感じ終に  
之れを現今の地に開くに至れり王政復古の後猶彦根藩の治下に屬せしが明治四年十一月新に廢藩置縣



の制を布かれしとき長濱縣を置かれ明治五年二月之を廢し更に犬上縣の管轄に屬し同九月更に滋賀縣の管轄となれり同年十月祝融の怒に逢ひ全町殆んど焦土となりぬ然れども之が爲め却て舊來の茅屋は一時に瓦葺と變せり明治十二年阪田東淺井郡役所を置かれたり之の時に當り商業亦大に進み協同會社を起すの必要を感じ明治十四年に貸金協力社同十五年に共同運搬會社同十六年に水運會社同十八年に魚鳥會社同二十年に近江製絲會社等前後勃興し陸には鐵道郵便電信水には汽船の便開け縣下屈指の商業地と稱するに至りしが明治二十二年東海道鐵道の全通するに當り幾分の衰微を來せり然れども市民益々商業に奮勵し或は北海の波濤を蹴り或は支店を三都に擴張し逐日歩を進むるの景況あり明治二十三年市町村制を布かるゝに方り長濱を町と稱し之を五十二ヶ字に分てり爾來幾多の分合を経て現時の二十九ヶ字となれり

### ○長濱の位置。地勢。河川。區劃

位置 長濱町は坂田郡の西北隅に位する一市街にして北及び東北は神照村大字八幡中山。列見に接し

東及び南は六莊村大字八幡東。高田。平方に隣り西方一帶は湖水に臨む  
地勢 長濱町は坂田郡山西平野の一部を占むるを以て一の丘陵を見ず地勢頗る平坦なり  
河川 瀬戸川は町の東北神照村より來り町の中央を貫流して西南琵琶湖に入る河口は小舟を通すべくして運輸の便あり

區劃 長濱町を二十九大字に分つ御堂前、伊部、相生、三ツ矢、神戸、郡上、北吳服、南吳服、西魚屋、祝、大手、東本、西本、宮、横、錦、神前、永保、北船、南船、榮船、八幡、田、米川、南片、片、北門前、船山、高田、之れなり

長濱町の面積及廣袤

面積 二百三十餘方町

廣袤 東西凡十五丁南北十四丁

長濱町の戸口 (明治四十三年九月調)

戸數 二千三百三十七戸 人口 一萬一千九百三十六人

内 男六千〇七十二人 女五千八百六十四人







# 生絲縮緬商



## 柴田源左衛門

近江阪田郡六莊村字室

電話一〇二番

京都市三條通堺町東

電話七四二番

支店所在地

東京市麴町區平河町四丁目

電話番町區六八九番

### 長濱遊覽案内

長濱に來らば是非とも一度は巡遊せではあるべからず茲に其の案内記をものして遠來遊客の便に供せんとす

#### ○八幡神社

長濱町大字神前にあり足仲彦尊與田別尊息長足姫尊の三神を合祀す延久元年源將軍義家の遺營にして後三條天皇の勅願所なりト部兼親之を奉行す往古は坂田八幡宮と云ひ又新放生寺と稱して寺坊頗る多く其數三百有餘に上りしと云ふ而して京極淺井二氏累代當社を崇敬し銘刀數多奉獻あり境内東西四町南北六町にして社領三千石を寄せらる依之長濱町を始め近隣七ヶ村を八幡の莊と云ふ後花園天皇永享年中將軍足利義教より社殿を修補し太刀神馬等を奉納せられ諸侯勸進の寄附奉加帳を授けらる元龜二年姉川合戦の際兵燹に罹り神寶を除くの外諸殿宇悉く烏有に歸し爾來大に衰頹を極めた



り天正元年羽柴秀吉始めて長濱に在城するに至り大に當社の荒廢せるを惜しみ境内東西二町餘南北一町の社地を寄附せられ新に社殿を建立し諸税を免じ境内亂入禁止の制札を建つ(豊太閤の眞筆なり)是より稍々舊觀を呈するに至れり今の八幡宮之れなり毎年四月十五日祭典を行ふ此日は町民より曳軸十二を出し幼兒をして狂言を演せしむ此等の軸鉾は何れも皆彫梁畫棟飾るに錦織を以てし實に有名な祭典なれば遠近より來觀するもの非常に多く頗る殷賑を極む

羽柴秀吉當社を大に尊崇せられ屢々賽して僧坊妙覺院に懇ふ園中に靈泉あり麻衣の井と云ふ此水を汲みて毎日點茶の用に供す秀吉之を汲月亭と名づけ侍臣曾呂利新左衛門に命じて庭園を造らしむ園中に恩知紅梅不動岩姥が石等あり之れ皆淺井氏の小谷城中より移せしものなりと云ひ傳ふ又境内に濱縮細創製紀念碑あり

○濱縮細創製紀念碑

陸軍少將大勳位能久親王篆額

吾近江國有濱縮細之產廣布海内人莫不稱其精巧今則遠輸之海外爲交易之一良品而其製造實寶曆年

間中郎林助乾庄九郎二子所創也二子東淺井郡難波郡人郎係舊彦根藩所領地瀬姊川歲被水害耕耘之利甚薄二子憂之將大開蠶織之利以謀救濟會丹後商人來說縮細之利二子喜之遂考究各土織法使園郎婦女從事于斯工漸熟所製日多嚮之京師當時西陣織工以爲妨害其世業者訴之于官々乃禁其開京師二子訴其不公強爭之遂下獄幽囚至四年不屈且屢哀懇郡民艱苦請開販鬻之途官憫其篤志縱之彦根藩有司及京人近江屋喜平者與有力焉二子益盡力此業而郡民被其利彦根侯深賞其功勞特許二子以織元之稱織元即有專賣權者也凡製縮細者皆受其點檢更受彦根國產局檢印而之京師使近江屋喜平量其輕重然後發售之各肆故長無濫惡之弊既而隣境仿之製縮細者至數百戶之多其製成者皆集之長濱以受點檢及檢印於是乎濱縮細之名大著其製造益夥得利澤日大矣嗚呼二子於百二十年前艱難勤苦能成其志以致其功績如此豈可不仰企而紀念哉明治十六年於大阪府設關西諸府縣共進會西鄉農商務卿蒞之聞二子勤苦之狀與其功績之著賜褒詞及金若干圓追賞之二子而有知爾將欣然拜其賜也

明治二十一年天長節 小野 愿 撰  
元老院議官從四位勳四等 巖 谷 修 書



○舎那院

長濱町大字神前にあり眞言宗にして延久元年源義家の創立に係かり後三條院の勅願所なり寺傳に曰く義家東征凱旋の後愛染明王を安し寺坊敷字を建て寺領三千石を附す大永七年僧雅法印の代に當寺及び八幡一山の學頭席に任せられ坊中の僧侶を教諭す文龜二年の兵燹に罹りて全寺烏有に歸す後年豊臣氏當寺の荒廢せるを嘆き假坊舎を再建し二十石の朱印を附す今の堂宇之れなり元和三年九月徳川氏より亦二十石の印狀を下附せらる而して愛染明王は弘法大師の自作にして惠心僧都作の阿彌陀如來と共に去る明治三十八年四月國寶に指定せらる其他多くの靈寶を藏すと云ふ

○智善院

長濱町大字相生にあり眞盛派天台宗にして寶生山と號す惟空上人の作なる本尊阿彌陀如來及び脇立日光月光の二菩薩を安置す縁起に曰く此寺古へ淺井郡小谷山に在りしが天正年中秀吉長濱に在城するや北門守護の爲め現地に移し寺領三十石を附す因に本尊及び脇立菩薩は秀吉中國征伐の時播州書寫山より携へ來り安せしものなりと云ふ明治三十八年四月本尊阿彌陀如來は國寶に指定せらる

○妙法寺

長濱町大字南片にあり日蓮宗にして京都妙顯寺に屬す當寺は長尾山と稱し天正元年東淺井郡小谷長尾山に始めて建立せしものなるが開基増長院日富元龜二年織田信長の兵燹に逃れて長濱に出で偶す時に京都妙顯寺日廣に知遇し日蓮宗に歸依す日富の弟子本光院日示碩學高德の譽高く秀吉深く聖人を敬望し末子小次郎秀勝當地に亡するや聖人をして當寺に葬らしむ本光院朝覺と諡す天正十四年豊臣氏より寺領三十石寺地三ヶ所を賜はる一は妙法寺の地にして二は小足村にあり京都村雲御所の元祖瑞龍院殿は秀勝の母儀なり明治五年當地の大火に類焼し堂宇什器悉く烏有に歸す妙法寺現住職兒玉禪戒氏主管に係る佛教悲田會看護婦養成所なるものあり今左に趣意書を擧ぐ

明治三十九年九月創立

佛教悲田會看護婦養成所

近江長濱妙法寺内 主管 兒玉 禪 戒

○特殊慈惠の補護を以て看護婦志望者を養成し傍ら修身教育を施し和洋裁縫其他家政を修業せしむ



○普く看護派出の依頼に應じ特に慈善を以て貧患者を救護す

○宗教教育矯風衛生公共慈善の事業に關する講演及び實行を爲す

○病魔の惨害は一個人に止まらず子孫に及染し社會に傳播し公徳の罪禍を招致する事あれば吾人は力めて節酒少欲勤勞勤慎の良習慣を養成して身体の健康を圖らざるべからず

○無智の者を教へて三寶を恭敬せしむるを敬田と云い君父の恩に報ゆるを恩田と云い貧者病者を憐むを悲田と云ふ之を三種の福田と云ふ

○大通寺

長濱町大字御堂前にあり眞宗東本願寺の別院にして寛永十六年三月の創立なり初め東本願寺第十三世宣如法主長濱に來り當地の佳景に富み北陸の要路に當り人家稠密江北の一都會にして布教上大に便利なるを以て一の大闢若を起さんとし慶安の初關東柳營に至るの際將軍家光公の乳母春日局に此事を語りしに局大に喜び直に領主井伊掃部頭に告ぐ直孝よりて封内の地方八十四間を寄附し除税の地とす是に於て法主本山の舊御影堂を茲に移し又豊公の城門を引き一寺を建立す之れ即ち今の大通寺なり

○寝物語

柏原村大字長久寺の東端にあり近江と美濃の國界にして兩國の人家相連りて寝ながら相對話することを得依之此の名あり又一名長競の稱あり兩國の山嶽左右に並びて長を競ふに似たるを以てなり一名所として古歌あり

右ひだり見て行きゆけば近江美濃 (兼良)

ふたつの山ぞたけくらへする

○源具行墓

柏原村の西方にあり俗に法華塔と云ふ具行は師行の子なり後醍醐天皇逆賊北條高時を討んとして事敗れて南都に逃るゝ途次北條氏の爲めに捕へられ鎌倉に送らる途中田兒六左衛門尉命に依つて之を此地に斬首す具行死に臨み辭世の一句あり

生死逍遙。四十二年。山河一帯。天地洞然。

後年清瀧寺の僧具行追善の爲め一石に一字の法華經を書寫し之れを土中に埋む故に此名ありと



○長濱城址

市街の西湖岸にあり永正八年三月京極氏の臣上阪治部大輔景重此地に城き今濱城と名づけ一子泰舜に譲りて老す同十三年八月淺井亮政の爲めに毀たる泰舜再び廢城を修補して淺井氏に抗す同十四年亮政再び來襲す泰舜力屈して觀音寺城に逃る天正二年羽柴秀吉織田信長の命を受けて再び築き長濱城と改稱せり同八年秀吉西征の將となり妻累を茲に留む十年明智の亂淺井の舊將阿閉長之當城を攻む妻累淺井郡草野谷に難を避く柴田勝家之を聞き越前より來りて長濱を略有し勝豊をして之を守らしむ慶長十一年徳川氏其臣内藤信成を茲に封じ五萬石を賜ふ寛永五年信成奥州棚倉に移封せられ遂に廢城となり今は桑園となれり明治四十三年三月時の町長吉田作平氏等發起し公園を開き勸業館を新築するの計畫中にて約一萬坪の桑園を開拓せり

○明治山

長濱波止場の西にある一小岡にして淺見又藏氏の所有なり明治初年築港の當時湖底を浚渫したる土砂を以て築きたる人工丘にして湖山の眺望絶佳なれば春秋の候には町民の遊散するもの多し

○清瀧寺

柏原村大字清瀧の山中にあり天台宗にして靈通山徳源院と號す永仁三年京極氏の祖佐々木氏信幸して當寺に埋葬し清瀧寺殿と諡す爾來十八世高吉に至る迄の墳塋ありて京極家の菩提所となれりと云ふ

○成菩提院

柏原村にあり天台宗にして寂照山圓通寺と號す弘仁六年傳教大師東國巡化の砌柏原村に憩留し給ふ際觀音の靈像を感見し一字を創立せり大師數日間留錫して道俗の爲めに說法す其蹟寂聞に達し勅願所となれり寂照山の號あり爾來談義所と稱す又大師本院を比叡山の別院とし本宗寺院の觸頭たり開創以來五百三十八年間堂宇僧坊儼然として七堂伽藍の大寺なりと嘉曆元年越前平泉寺僧徒の爲め堂宇悉く破却され以來大に衰頹を極めたり應永二年足利義滿公の志願に由り堂宇僧坊を再建し供養料若干を寄附す當時の住持叡山西塔寶園院貞舜大に與りて方あり之を中興とす永祿十一年八月織田信長入京の際當寺に止宿す時に御臺所平産あり其夜護魔堂より出火し諸堂什器等悉く烏有に歸す同十四年西尾隱岐守寺領百五十石を寄附し諸堂を再建す同十九年四月豊臣秀忠も寺領安堵の朱印を寄す關ヶ原役後徳川家



康陣中の殘糧二百石を寄附す而して當時武家の崇敬深く將軍義照公を始め織田信長羽柴秀吉丹羽長秀小早川秀秋等の禁制札あり

○永明寺

柏原村にあり黄檗宗にして慧日山と號す往古同村岩佐九兵衛直次山根孫六郎由茂岩佐忠五郎直廣の三氏協力して開基創立せしものなり式代獨心和尙が開闢なるも其師教諭大慈普應禪師鐵牛和尙を奉じて開山に勸請す最初酒鹽谷にあり享保十五年菅浦原に轉ず然るに地質宜しからず又衰に連接して寺門の風致を害せり此に於て延享二年今の寺ヶ鼻に再轉し現今の堂宇を建築したるものなり境内に五葉の松樹あり鬱蒼たり一株十三幹恰も龍の蟠るが如し

○泉明院

柏原村にあり天台宗にして明星山と號す延暦年間僧教大師當國に叡山を始め七ヶ所の薬師道場を開基せられたる其一にして本尊薬師如来十二神將は大師の自作なり其頃明星池上に降りたる奇瑞に因て大師山を明星寺と號し後年泉明院と稱す是の事桓武天皇に達し叡威の餘り詔して大殿寶塔鐘樓僧堂を建

立し若干の田園を寺領として賜ふ茲に於て大師朝恩を報ずる爲め當院に御陵を建立し柏原塚を王塚と云ふ然るに應仁文明の間に兵燹に罹り堂宇十二神將什器は悉く烏有に歸し只殘るは本尊と桓武天皇の尊像のみ爾來寺領も亡び殆んど廢頽せるを後年僧圓賢が小堂を造り其後天文二十一年大檀越多賀豊州貞隆と云ふ人再興を企て貞享年間より元祿三年の間に住僧權大僧都秀憲師佛堂十二神將等悉皆改造全備せりと云ふ

○柏原驛

中仙道の一驛にして美濃の國界を距ること十九町なり傳へ云ふ往古此地より毎年正月齒固と稱し餅を柏の葉に盛りて献進する古例あり因て村名となれりと

○野瀬野ヶ原

柏原驛より大字長久寺に至る間の野を云ふ里俗に傳へ云ふ小栗判官兼氏美濃青墓の宿にて惡徒の爲に謀られ毒酒を呑む其愛妾照手姫車に載せ此野に來り石地藏のあるを見て笠を脱し地藏に被せ一夜祈願を籠め熊野本宮の温泉に浴し病癒へたり歸路再び此地を過ぎ一寺を創建し地藏を本尊として蘇生寺と



名けたりと云ふ慶長の亂兵燹に罹り堂宇を焼失し今は只石地藏のみを存せり

○伊吹山

一に伊富貴又は膽吹とも書く近江美濃兩國の界に聳立し日本七高山の一にして直立四千五百尺登路一里二十町實に縣下第一の峻嶺なり古へ日本武尊の毒氣に感せられしは此山なり登路に役小角修行したる所あり山頂に至れば彌勒堂あり方四町は平坦の地にして晴天には十有餘州の山川都邑盡く双眸に映じて壯快言方なし駿河の富士山も見ることを得西に九折七曲の坂あり此の處より太湖を望まば濃濃相交り眺 矚甚だ佳なり北に伊吹白砂利と云ふ所あり絶壁削るが如く險阻にして牧童草を刈り來て投すれば一瞬間に姉川の岸に落つると云ふ又織田信長耶蘇教師を葡萄酒より迎へし時當山に其本國の奇草珍木を植付けしめたり今尙藥草等の多く生ずるは即ち之に因由するなりと

○伊夫伎神社

伊吹村にあり天乃吹男神を祭祀す天正年間姉川合戦の時神寶及び社記古文書等悉く兵火に罹り焼失し由來詳ならざれども往古伊吹山の絶頂に鎮座ありしが奉幣使登臨困難なる爲め現地に遷座すと云

ふ現に大原村大字村居田に伏拜松と稱し一樹の一松あり是れ即ち遙拜所の舊跡なり舊氏子の輩祈雨登山の節遙拜所に於て舊例を執行す十五ヶ字の氏神なり

○藤川驛

北國脇往還の一驛にして美濃の國界に近く道の左右に男岩妻岩と稱する大石あり此地は關ヶ原の役徳川家康の陣營を移したる所なり又歌人藤原定家の寓趾あり舊本陣某の居宅即ち是なり定家此に居る事三年傳ふる所の藤川百首の和歌は此處にて詠じたりとぞ今尙遺愛の石梅等を存す

○伊吹四大寺

觀音寺、彌高寺、長尾寺、太平寺の四大寺は何れも光仁天皇の御代安祥上人天皇の勅を奉じて開基せし所のものにして伊吹山麓に在り往古は堂宇僧坊儼然たりしが元龜元年の兵燹に罹り全寺悉く烏有に歸し今は只數坊を餘すのみ

○太平寺城趾

伊吹村大字太平寺にあり京極氏初期の居城にして十一代高清に至り永正六年上平城を築きて此に移り



太平寺城を廢せり京極氏は佐々木信綱の第四子氏信より出で父信綱封土近江を二分し江南六郡を三子泰綱に譲り之を六角氏の祖とし江北六郡を氏信に與へ京極氏と稱す六角京極と稱するは即ち京邸の所在地に因て斯く名く是に於て文永二年氏信城を太平寺に築きて近江守護となる然るに十二世高峰に至り淺井氏の滅す所となりしも後年淺井氏亡ぶに及んで十五世高次再び近江守となりて以後遂に子孫斷絶せり

○悉地院

伊吹村大字上野の山中にあり新義派眞言宗にして伊吹山護國寺と稱す白鳳二年役小角の開基なり後年泰澄大師中興す往古は元彌高寺と號し十八丁山上に百坊ありて其本坊なりしが明應八年の兵燹及永正九年の火災に罹り百坊悉く烏有に歸し坊中九分は他へ離散し天正八年本坊及び脇坊も亦今の地へ轉じ後再建して井伊家の歸依あさからざりし其後一時は大に衰頽せしが維新以後檀徒一同の盡力により漸く舊觀に復し現今塔中及び末寺十一ヶ寺あり

○廣姫皇后陵

大原村大字村居田にあり延喜式に所謂息長墓とは之なり皇后は息長眞手王の女にして敏達天皇の皇后となり押阪彦人大兄皇子其他二皇女を生まれ給へり父眞手王は當郡の人なれば父に隨ひ此地に在りて遂に崩御せられしならん

○醒ヶ井驛

中仙道の一驛にして居寤泉あるを以て名づく泉は靈泉にして如何なる大旱と雖も減水せず古く玉倉部の水と稱ぶ景行天皇四十年日本武尊東夷を征伐し歸途伊吹山に妖神ありと聞かせ玉ひ之を退治せんと欲し登山し給ひ山神の毒氣を受け精神昏々として酔へるが如く苦惱甚だしきより山下に出で此清泉を掬ひて御腦を冷し玉へり因之居醒の清水と改稱す泉中に尊の御腰掛石、及鞍懸石あり又佛堂あり傳教大師開眼の地藏菩薩石像を安ず舊堂宇は大垣城主石川日向守慶長中の建立なり當驛は名所舊跡多々なりて雖も最も古來世に顯著なるものは所謂三水四石にして醒ヶ井の泉、十王水、西行水、を三水と稱し日本武尊御腰掛石、鞍懸石、蟹石、影向石を四石と稱す而して泉の水流れて醒ヶ井川又は天野川となる醒ヶ井汀頭に不斷櫻あり舊花去れば新蕾忽ち含みて四時絶ゆることなし明治十一年十一月 今上



陸下當地御通靈の砌り一枝を手折りて御覽に供せしと云ふ

○西行水物語

仁安二年西行法師京師へ上洛の途次醒井泉中に小石あるを見之を拾ひ上げて某茶店に預け置きしに不思議なるかなこの石常に水滴りて止むことなれば主人怪しみて之を打割りしに小蛇二疋出でけり其後西行法師關東へ歸るの日囊に預けし石を求めしより主人ありし次第を物語りしかば西行いと残り惜しげに彼は龍石とて水石なれば我武藏の野に持歸りて千田萬畝を養ふと思ひしものとて

武藏野に思ひしことは夢醒井

波にくだけて石惜しぞ思ふ

と詠れけり此時茶店に容貌美麗なる一娘あり西行を一目見るより戀慕の情切なりければ西行出立の後其飲み残せし茶の泡を飲みしに是より懷妊の身となり遂に一男子を産みけり翌年西行再び上洛する時この茶店に立寄りければ主人夫婦其子を抱き出で右の譯を物語りしかば西行見て奇異の思をなし汝果して我子ならば元の泡に歸へれとて

水上は清き流れの醒井に

浮世の垢をすゞぎてや見ん

と詠じければ其子忽ち消えて泡となりけり西行乃ち茲に五輪塔をたて、一煎一服一期終、即今端的雲脚泡と書して立去られたりと之より此處を兒醒が井町と云ふ往古の石塔今尙存す

傳へきく夢の浮世や醒が井の

水の泡子の消ゆるならひを

○観音寺

大原村大字朝日にあり天台宗にして伊富貴山と號す寶龜年中三修沙門安祥上人光仁天皇の勅を奉じて伊吹山麓に四箇の大梵刹を開基し給ふ即ち伊吹四大寺の一寺なり元慶二年二月十三日陽成天皇の御宇額を伊富貴山觀音護國寺と賜り延元丁丑年中後醍醐天皇より坂田郡の内長岡莊鳥羽上郷御寄附の勅狀を賜り開基より五百八十年伊吹山寺ヶ嶽に在りしを貞和三年坊中二十三學頭花藏院今の所に移し佐々木道譽の末葉大原判官信綱より代々崇敬せられて七堂伽藍を再建し續て淺井三代の城主深く信仰あ



りて莫大の寺領を寄附し其後姉川合戦の際兵燹に罹り全寺烏有に歸す後年羽柴秀吉も深く崇信し屢々農軍に勝利を得しより自ら筆を執て觀音の像を繪き諸堂を再建せり慶長七年徳川家より山林境内御除地の御書物を賜はる

○光明院

東黒田村大字志賀谷にあり眞言宗にして松島山と號す人皇九十九代龜山天皇の御宇文永元年願行上人の開基にして本尊阿彌陀如來は行基菩薩の作なり大原判官佐々木時綱大のに崇敬し境内數千坪及び山林數十町を免租地となせり後年後光明天皇の御宇時の將軍足利尊氏の歸依し玉ふ處となり御直筆の制札を賜はる天正元年信長の兵燹に罹り全寺悉く烏有に歸す同三年諸堂宇を再建せり開基以來六百有餘年の久しき法燈連綿として今に至る各宗高僧の眞筆其他靈寶非常に多しと又境内に河瀧明神あり花柳病一切の平癒祈願を垂れ給ふとて參詣するもの日々に多しと云ふ

○總寧寺

息長村大字寺にあり曹洞宗にして安國山と號す永徳三年近江の太守佐々木六角判官源氏入道雪江崇英

大居士の開基にして通幻和尚を請して開山禪師と爲す禪師は開祖永平承陽大師五傳の弟子にて寂靈と稱し高德世に高く聞ゆ爾來第二十六世を経て越翁宗超和尚の時享祿三年堂宇兵燹に罹り焼失せり于時宗超避害遠州城南乘安寺に偶す後轉輾遂に總州鴻臺に移る是れ即ち明治維新前本宗一般の觸頭たりし現今の安國山總寧寺にして當山と山號寺號を一にして宗超和尚の傳燈兩立せり後幾許もなく堂宇を再建し舊に復せり第十四世嫩泰和尚の時承應二年本郡朝妻の城主新莊越前守直好大檀那として大に堂宇及び諸建物を再建す今の堂宇即ち之れなり

○蓮華寺

息郷村大字番場にあり時宗一向派の大本山にして八葉山と號す人皇三十四代推古天皇二十三年慈崇法師の開基にして初め法隆寺と稱し日本三法隆寺の一なりしが建治二年六月一日雷火に罹り堂宇悉く焼失し一時廢絶せるを弘仁七年夏時宗の祖俊聖遊歴の途次此地に來る時に當寺の僧畜能畜生の二人深く上人に歸依して遂に其門に入る又時の領主土肥三郎元頼も深く上人の徳を慕ひ剃髮して弟子となり名を道日と稱す伽藍を再建して上人を開山とし周圍に入つ峰あるを以て八葉山蓮華寺と號す十七世稱



阿上人の時後柏原天皇より明道上人の號を賜ひ正親町天皇より二十二世來阿の代に勅願所となる慶長五年關ヶ原の役徳川家康當寺に陣し以後多くの寺領を附す又當寺に過去帳あり北條仲時以下四百三十餘人の法號を記す槽谷十郎の筆にして世に稀有のものなり

○北條仲時墓

蓮華寺境内にあり仲時は相模守基時の子にして元弘元年五月足利尊氏と京師六波羅に戦ひ敗軍するや光嚴天皇後伏見花園の二上皇及び皇子を奉じて東に逃れんとし此地に来る時に南朝の士守良親王兵を起して之を遮る仲時之と戦ひしも衆寡敵せず遂に敗軍し從者四百餘人と共に蓮華寺に入りて自殺す時に年二十八門前に細流あり土人血の川と云ふ死屍山をなし鮮血流れて紅色となりしに因ると

○磨針峠

鳥居本村大字下矢倉にあり登ること數町にして山頂に達す茲に望湖堂あり眺望絶佳にして太湖を望む竹生島は遙に水雲香霧の中に隠見し實に湖東の勝區なり古へ一書生京師に修學し業未だ成らずして歸る途次此地を過ぐ一老嫗の斧を磨するを見て之を問ふ老嫗曰く針となさんと書生其勉勵不屈の精神に

感奮し再び西上して苦學せりと云ふ之より磨針の名ありと云ふ

旅衣はころびぬれや磨針の 兼良

峠にきてもぬふ人のなき

小原鐵心

路到磨針感忽生。馬頭遠水夕陽明。 掃除天下兵塵了。與此湖光一碧平。

○鳥居本驛

中仙道の一驛にして又朝鮮人街道の分岐點なり往古多賀神社の鳥居(一説に顔戸の日撫神社の華表なりとも云ふ)ありしに因り此の驛名ありと

○法界坊古蹟

法界坊は鳥居本上品寺の住僧にして道德堅固を以て開ゆ一年法義修業の爲め江戸に出で偏く都下を托鉢す時に吉原某樓に花扇太夫なる者あり才色廊中第一と稱せらる一日法界坊の高名を聞き之を招きて授戒を乞ふ法界坊乃ち之を授く花扇大に喜び之が謝禮として廊中より巨金を募り之を以て一梵鐘



を鑄造せしめ施主の名並に自名を刻して布施す法界坊大に喜び之を車に載せて安永二年の春江戸を出立し東海道を下して鳥居本に歸へれりと云ふ世に法界坊を墮落僧の如く記せしは誤謬の甚しき者にして其名の餘りに高かりし故種々附會して演劇に仕組みしなり

○山田神社

鳥居本村大字宮田にあり譽田別命。田心姫命。湍津姫命。市杵島姫命。佐田彦命。の五神を合祀す稱徳天皇天平中一夜神夢の御感あり近江國坂田郡小野の莊山田神社に勅使を遣され社殿を再建せしめ給ひ神護元年四月落成す以來封建の武將等も崇信し今は郷社に列して境内九百四十坪餘を有す

○小野驛

中仙道中古の驛次にして小野莊と云ふ往古驛は鳥籠にありしも中古小野となり後年鳥居本に移りて鳥籠小野の驛家は廢絶せり而して後鳥羽天皇和歌所の附屬地にして藤原俊成。定家。爲家。の相傳領有せし所なり

忘れつゝこれも聲かぞ驚けは

雅經

なれぬ旅寝の小野の山風

○靈水寺

入江村大字梅ヶ原にあり當寺は天平年中僧行基の開基に係り一大道場たりしが後ち中絶す承應二年僧江岸井伊氏の臣菟原朝真に謀り之を再建し曹洞宗に屬す寺寶には弘法大師の泥作なる辨財天雪舟の筆なる觀音の像齋寶鐘寺宮の御自筆なる寺號の額等あり

○米原驛

北國街道の一驛にして琵琶の支湖に枕し近江三港の一なり入口六千餘あり此地は東海鐵道線主要の驛にして北陸鐵道線の分岐點なり日に繁盛に赴き警察分署郵便局等あり

○青岸寺

入江村大字米原にあり曹洞宗にして吸湖山と號す古へ不動山米泉寺と稱し勢州丹生の内御厨子邑正法寺の末派にして領主佐々木佐渡判官道譽宿願あつて法華經一部を書寫し其大尾一軸を此地に納め山を大尾山と稱し代々祈願所となせり又當山に隱城を築き四方隨樓と稱したり永和元年二月佐々木六



角太夫判官氏頼郡邑巡檢の砌當寺に來りて由來を綜ね伽藍を修補し讚岐堯尊の作なる觀世音を本尊に  
安じ常に崇信し臨殿には此本尊を旌竿に奉納し祈願すれば一戰として利あらざることなしと云へり其  
後幾多の星霜を経て永正の始南北朝の變戰に佐々木京極之を燒亡す後年要津禪師觀音の靈驗を感じ越  
前の伊藤居士なる人と力を戮せて再建し要津禪師を以て中興開山となし寺號を吸湖山青岸寺と改め彦  
根城主井伊氏も青岸の靈地と要津禪師の碩徳を感じて山林田圃を多く寄附したり

○朝妻の里

入江村の湖畔にあり往古此地は湖北の大湊にして神崎江口の如く遊女多く住せし里なり世に朝妻船と  
稱へ舟中に烏帽子を着けたる遊女の圖ありて此地遊女の風俗を寫せるものなり一時江戸市中に流行し  
て甚だ有名なりしと云ふ古歌最も多し夫木集家長の詠せし歌に

磯の海やあさ妻船も出にけり

つなく氷を風やとくらん

朝妻船歌

英 一 蝶

あだしあだ浪。よせてはかへる浪。朝妻船の淺ましや。あゝまたの日は。誰に契りをかわして。色  
を。枕取かし。いつわりがちなる我床の山。よしそれとも世の中。浮寝つらさの。まつちの山の  
風。夕越えくれてさゝをぶね。あゝ定めなや床の浦波。友なき千鳥くたへぬ思ひに月日を送るも  
あだ人心。よしあふまで移り香。あだしあだなる身は浮枕。ならばぬ程の床の露。あゝ幾たびか。  
袖にあまれる涙の色を。あゝ袂どの色を嶺の紅葉は。獨りこがれて。枕の涙。あわれと人の問へか  
し。うきを語らん友さへなくて。なぐさめかねつわが心。うつなや。すぎしつたへの其水莖の。  
くろみし跡をみるにつらさの。いやます涙は誰かへぬる。あわれと袖もとへかし。

右の歌は即ち英一蝶が懷舊の情に堪へず此地に來り作りし者にて朝妻船の繪と共に一時非常に流行  
せりと云ふ

○都久麻神社

入江村大字朝妻筑摩にあり人皇六代孝安天皇の代始て建立せる舊社にして大歳神のみを祭祀せしも後  
年此地を大膳職御厨所と定められしより御食津神稻倉御魂神大歳神の三神を合祀し一大神社なりしも



其後物替り星移るに随ひて神祀類破せしに土民三神相殿に奉祭することせり上古神功皇后三韓を御  
 征討し玉はんとて越前角鹿へ赴むかせらるゝ途次當社に參籠御祈願あらせられたり又繼體天皇越前よ  
 り御還幸の途次行宮に充てさせ給ひ神殿瑞籬を御再興遊ばさる承久元年後鳥羽上皇當郡名越の行宮へ  
 御行幸の砌御參拜ありて當社御手洗川の神水を以て銘劔を鍛せ給ひ之れを奉納ありたり而して毎年  
 五月八日八人の少女各鍋を被りて神幸に従ふ若し犯姪ある者あれば忽ち其鍋破裂すと又此地の婦女  
 一度婚すれば鍋一個再婚すれば二個等其婚數に應じて鍋數を戴き神幸に列する古例ありしも今は唯八  
 人の少女紙製の鍋を戴き波御に隨ふ古來筑摩の鍋祭と稱して有名なり歌人俳士にも屢詠唱せられたり  
 近江なる筑摩の祭とくせん

業 平

つれなき人の鍋のかすみん

おほづかな筑摩の神の爲ならば

顯 綱

いくつが鍋のかずはいるべし

○日撫神社

日撫村大字顔戸の日撫山にあり少毘古名命。譽田別命。息長宿禰王の三神を合祀せり式内の郷社にして  
 郡中の一名社なり社傳に曰く神功皇后三韓征伐凱旋の後創立せしものにして以來御歴代の御崇敬厚く  
 今其概略を擧ぐれば應神天皇太刀一振を納めらる天武天皇白鳳年中詔して殿宇を修し社領を賜ふ村  
 上天皇も御宸翰の額を勅納せらる白川天皇勅して社領六百石を下し賜ふ又後鳥羽上皇も名越の行宮よ  
 り屢々此社に輿輿を巡らせ玉ひ武門の歸依も甚だ厚く佐々木高綱の寄附せし鞍及び寶劔を藏す往古當  
 社の一の鳥居は鳥居本村にありしと云ふ

○息長宿禰墓

日撫村大字顔戸にあり宿禰は大筒木真若王三世の孫にして葛城高額姫を妾とし其中に氣長足姫生れさ  
 せ玉へりこの姫こそ後年三韓を征伐し武名を海外に輝やかし玉へる神功皇后なり一説に息長宿禰墓は  
 息長村大字能登瀬山津照神社境内にありと云ふ或は信なるが如し墓の此地にあるは息長氏の領地にし  
 て茲に居住墓去せられしなるべし

○山津照神社



息長村大字能登瀬にあり崇神天皇以前の創立にして人皇九代開化天皇の玄孫息長宿禰王此地に御在住中大のに當社を御尊敬あり御料箕の浦の莊二十有余ヶ村の産士神にして祭神國常立尊を奉祀す又境内に息長宿禰の墓あり

○後鳥羽上皇古蹟

西黒田村大字名越にあり上皇常に政權の武門に歸して朝威の漸次衰頹するを嘆かせ玉ひ之を回復せんとの御志あり時に比叡山寶幢院に阿闍梨禪行と云ふ僧あり學徳兼備し常に王風の萎微を憂ひ屢々宮廷に入りて上皇の密議に參與しつゝありしが後幕府の嫌疑を恐れ名越村に避けて名越寺に幽棲せり正治元年三月四日後鳥羽上皇密に此地に行幸せられ禪行を召して之に寶刀一口及び管丞相手寫法華經八軸を賜ひ且つ北條氏誅伐の秘事を告げさせ給ふ此時に當り幕府の專横益々熾なりしかば土皇大に怒り遂に擧兵を決意し玉ふ承久元年四月再び名越寺に密幸し玉ひ禪行に勅して勤王の士を糾合せしめ且つ宇賀野に幸し刀鍛冶片山左近外七十五名を召し鳥羽上村に於て刀劍を鑄せらる既にして幕吏上皇の蹤跡を探るに及び京師に還幸し玉へり三年北條氏京師を犯す官軍大に敗れ上皇父子共に隱岐に還幸し玉

ふ之を承久亂と云ふ禪行之を聞くや病を發し遂に逝去す後北條氏亡ぶや朝廷禪行之忠誠を追賞して大和尚の號を贈られたり今上皇此地に於ける御製一二首を掲ぐ

近江なる筑摩の森の呼子鳥

君よびかへせ小夜ふけぬまに

筑摩江や磯のものはやし過ぎゆけば

名越の森や遠くなるらん

○名越寺

西黒田村大字名越にあり惠光山常喜院と號す白鳳年中三修沙門安祥上人の創立にして其法弟名越修叢の道場なり往古は七堂伽藍ありて廣大なる寺院なりし元龜年中織田信長の兵燹に罹り焼失し今一小堂を存するのみ當寺は正治承久年間後鳥羽上皇の屢々御幸ありし所にして行在所を圓光院と云ふ後村上天皇正平六年勅願所となり後光嚴院より制禁札を下賜せらる堂前に溪流あり御祓川と云ふ之れ上皇



の玉體を齧ぎて天地の神祇に祈誓し玉ひし古蹟なり

○後鳥羽神社

名超寺の傍にあり後鳥羽上皇名超寺に御幸の砌り時の僧禪行上皇の宸影を乞ふ上皇之れを許され乃ち御親から玉體を刻して之れを下し玉ふ應永二十四年後小松天皇勅して鳥羽殿を建立し御像を安し下坂七郷の地三千石の祀田を下賜せらる元龜二年織田信長の兵燹に罹り殿宇焼失し其祀田をも沒收せられたりしも幸ひ御像は無事なりしを以て羽柴秀吉殿宇を再建せしも徳川氏に至り再び沒收せられ漸次衰頽しつゝありしが明治十一年今上天皇陛下北陸御巡幸の砌り大津行宮に於て御宸影を天覽に供し奉る此時後鳥羽神社の號を賜はり新に社殿を營み之を奉祀す明治二十三年今上天皇陛下御宸筆の神額及び保存資金若干を下賜せられたり

○後鳥羽神社碑

凡事有於一身而利於天。敗於當日而成於後世者。匹夫冒難。爲天下後世建大計。功雖未成。百世廟食。况萬乘之尊、欲除權姦。播越流離。甘爲海島鬼。若 後鳥羽上皇。凡居王土爲王民者。孰不悲其志

仰其靈乎。淡海阪田郡名超邨有 上皇駐蹕遺跡焉。其安 御像處曰名超寺。修法處曰御祓川。泛船處曰天川。手植樹木曰後鳥羽梅。曰後鳥羽杉。而新莊下阪諸神岡々松原等處。並有 御製題詠。具載永錄三年日吉社司祝部希時所撰歌集。據土人所傳。昔者 上皇與 順德帝。同謀討鎌倉幕府。時比叡山寶幢院有阿闍梨禪行者。學德兼備。居常歎王風式微。屢召之內道場。託修法以參密議而禪行避嫌。寄跡名超寺。正治元年 上皇徵行訪之賜寶刀一口及管丞相手寫法華經八軸。以祈 王室隆興。承久元年府帥源實朝薨。陪臣北條義時。迎立幼主。獨秉國命。 上皇益惜之。明年復幸名超寺。密勅禪行募兵。因手刻 御像以賜之。又明年六師東征。不克。賊軍犯 闕。 上皇父子蒙塵海島。於是禪行痛恨病歿。及北條氏亡。朝廷追賞其忠。贈大和尚。應永二十四年勅造一字。安 上皇御像。曰後鳥羽殿。賜繪旨寄本郡下阪七郷地三千石爲祀田。後百五十載。織田信長與淺井長政構兵。以寺僧助敵。放火燒堂宇。沒收其他。信長亡。羽柴秀吉領茲土。重建復舊觀。獨境內四十八町地租。授祀田六段二畝。今上即位之十一年冬 車駕巡狩。有旨致 御像於大津行宮。是年土人相議。創祠宇於名超寺南以祝之。稱後鳥羽神社。今茲丙戌秋。樹碑表之。滋賀縣知事井君嘉尙。囑剛撰文。或



有以其所傳與舊史不合致疑者。剛謂不必疑也。賴子不言乎。承久之事舊史曲筆可疑。夫舊史果可疑則安知非其不合者之反得其實乎。蓋 上皇英明講武藝造刀劍。置西面武士。其謀東征。非一朝一夕乃日用嬖妾讒口。殊為誣妄。然則召禪行參密議。募兵京畿。與 元弘帝召僧文觀圓觀等為無禮講相類。其事不可謂必無也。抑鎌倉以還。武臣專制。六百餘載。今上中興。始復王權。而推所由來。上皇父子實啓其端。先是佐州人建碑。表 順德帝遺跡。剛為之銘。而今淡海人又有此舉。皆能仰體聖主紹述祖業之叡旨嗚呼其可尚也已。銘曰。

昔兮喪亂。冠履倒顛。今兮中興。日月高懸。沿流溯源。孰啓厥先。有儼御像。德不可諉。瞻彼北海。怒濤捲天。願此太湖。琉璃湛然。神歸來兮。爰築祠壇。神歸來兮。爰薦蘋蘩。勤王義故。苗裔尙存。討賊方略。口碑是傳。代口以石。垂美萬年。神歸來兮。永護斯民。

明治丙戌十月

從五位勳六等 川田剛謹撰  
 內閣書記官正五位勳五等 巖谷修書

○阪田宮

法性寺村大字宇賀野にあり祭神天照皇大御神にして人皇十一代垂仁天皇の御宇八年七月七日天照皇大御神の御神寶を倭姫命供奉供被遊國々御巡幸の砌甲賀日雲宮より當阪田宮に奉齋せし舊社にして往古中居大宮所阪田宮阪田神明宮阪田皇大神宮とも奉稱阪田一郡の總社と崇め古今人々信仰厚し毎年初穂を奉納す明治十四年二月郷社に列せられ同四十一年四月二十九日岡神社と共に神饌幣帛料を供進すべき神社に指定せられたり

○岡神社

阪田宮と並列せり祭神豐受皇大神にして人皇六代孝安天皇の御宇に鎮座ましませしものなり豐受毘賣神の由來は縁起古書等に 詳にして延喜式神名帳に掲載しあり阪田宮五座の内の一社なり岡は宇賀の同音にして大神の亦の名は保食神と稱して衣食住の三つを掌り乃ち農産を護り玉ふ大神にして社地近き田甫の字に岡と云ふ所あり承應年中の古繪圖に當社より半町餘東に宇賀野の内岡村とあり今は葦地となれり岡村に亦の名は豐岡姫命座し玉ひし故に岡神社と申し亦の名は宇賀の魂命と申す故に神號



に因りて村名宇賀野と云ひ傳へり又阪田と云ふは榮田の意にして舊彦根藩までは藩郡社なり阪田宮と共に藩主の崇敬あつて殿宇造營修葺等最も手厚し明治十四年二月郷社に列せられ同四十一年四月廿九日阪田宮と共に神饌幣帛料を供進せらるべき神社に指定せられたり

○福田寺

法性寺村大字長澤にあり真宗本願寺派の寺院にして役小角の開基に係り後鳥羽上皇の勅願所なり寺實には後鳥羽上皇御宸翰狩野の筆なる見真大師四幅の繪像等あり

○良崎寺

六莊村大字下阪濱にあり臨濟宗にして平安山と號す建久二年佐木入道茂山道倫の開基にして北條時頼徹行巡檢して當寺に宿する事數日にして本尊の飲くるを聞き佛供料を添へ寄進す今の三尊即ち之れなり又其供料方三丁の寺領は今の永久寺村にて十三世信長の爲めに没收せられ中興開山は粹岩宗純なり今の敷地九百六十三坪なり境内に觀音堂あり聖徳太子御自作の像を祭ると云ふ

○徳勝寺

六莊村大字平方にあり曹洞宗にして大和國補嚴寺の末寺なり往古淺井郡山田村にありて瑠璃山醫王寺と號す永正二年小谷城主亮政祖先の冥福を修す爲め小谷清水谷に移し香華院と稱し伊部月ヶ瀬にて二百石の寺領を付す小谷落城の翌年即ち天正二年秀吉城廓に移し義子秀勝を住僧源秀に托して修學せしむ其故を以て秀勝寺領若干を付す秀吉も同四年伊香郡井ノ口村に於て三十石を徳川家康も亦同額の朱印を寄す慶長年中内藤信成長濱田町に移し寛文十二年今の地に移すに及び東福門院より銀二十枚を下賜せらる又彦根城主も尊信して要材人夫等を寄附せられたり明治三十八年九月時の住職西尾關仲氏育兒事業を經營し孤兒數人を寺内に收容し居りしが同四十年九月大津市佛教各宗同和會の經營に係るものと合併し同四十一年六月三井寺山内舊跡善法院へ移轉し滋賀縣育兒院と稱し西尾氏院主となれり

○總持寺

南郷里村大字宮司にあり眞言宗にして醫王山と號す天平年中國分寺靈試地にして聖武天皇の勅を奉じ行基菩薩の草創なり當寺開山實濟勅許法印此地を見るに一字の藥師堂あり本尊は行基の作にして御丈七尺の靈像にして楞嚴院の庄氏神山王宮の本地佛なり衆人法印をして院宇を造立せん事を乞ふ依て元



長元年 畠山義滿に託して大樹に訴へ此地に眞言院を創立せしむるの命を乞ふに將軍義教此年上皇眞言院一字建立の命あり依て此事奏聞に及び勅願建立の恩詔を蒙り國民を募集し早く運載の勞を催し土木の功を勵むべき旨教書を賜り之れを江北の士夫に告げ淨資を四方に募り勳力を諸郡に勸め僅かに三歳の星霜を経て構造 悉く成り光彩霧を拂ふ後年永享五年三月三日後花園天皇勅して總持院の號及び朱印を賜ふ天正年中羽柴秀吉よりも黒印朱印等を賜ふ慶長十八年當寺の靈場たる事幕府の上聞に達し徳川氏より前の朱印合せて百二十石及び境内山林竹木等を賜ふ此時院號を總持と改められ永祿年中信長の兵燹に罹り僅に客殿仁王門を餘す而已今の客殿仁王門即ち之れなり尋で永享年中勸學院を建立し近江國の學頭と定む又永祿年中兵燹に罹り烏有に歸す慶長七年勸學院を前の如くに再建し今に現存せり末寺三十四ヶ寺を有せり

○順慶寺

北郷里村大字西上阪にあり眞宗大谷派にして長久山と號す文曆元年三條家八代目左大臣實房公の嫡男善福上人の開基なり上人始め叡山に修學し大僧都理圓と號す其後柏原成菩提院に住職し老後長久寺に

隱棲す再轉して上阪村に長久山順慶寺を創立せり見眞大師本部錦職寺に弘法の際師に歸依し善融と改稱す本寺境地等は實房公より寄附す又實房公法爾上人の弟子となり靜空と號す自ら彌陀の畫像を刻み諸人に之を授く其銘に曰く

依有夢想吉。剎彌陀佛像。自寫授諸人。願俱生安樂。

建保五年五月拾五日

念佛宗末學沙彌 靜空

晩年實房公當寺に居住し院中に薨す古墳今尙後園に存す文久元年三條實美公畫像を再摸し追銘して曰く

右三條左大臣實房公自寫尊容者近江國順慶寺所傳也爰奉爲先考三回追善向生前御願奉摸剎授諸人乃至功德無邊利益不限

文久元年十月三日

右近衛權少將藤原實美



明治十三年七月西京御駐蹕の日實美公肖像を召拜す此時畏くも陛下肖像を一夜宮中に留め玉ふ此時宮内省より侍従西四辻公業をして親しく當寺に就き墳墓を驗し寺傳を奏せしめられたり

○神照寺

神照村大字新庄寺にあり新義派眞言宗にして日出山と號す寛永七年宇多天皇本覺大師益信大僧正に勅して創建せしめ給ひ悉くも宸翰を染て日出山神照寺の勅額を賜ふ往古全盛の時に當りては擔登負笈の僧徒輻輳し院宇三百に餘りて七堂伽藍の壯觀を示せり下の郷氏神即ち舊稱眞源寺の傍に神照寺開山本覺大師の墳墓と稱し古雅なる石塔あり又大字馬場の八坂神社の境内には神照寺全盛の時層塔中心の巨礎あり上古の如何に隆旺なりしかを知るべし正保年間洪鐘の銘文あり今の梵鐘即ち之れなり銘文後に出るを見るに院宇の數多なるを徵證するに足る然るに物換り星移り中世衰微に向ひ殿宇殆んど荒廢す當時源尊氏靈利の泯滅せんとするを憂ひ若干の莊園を納めて法燈の將に滅せんとするを桃ヶ寺門に暉輝せらる永祿年中信長の兵燹に罹り伽藍坊舎等悉く烏有に歸す其後淺井長政修興に力を竭せりと天正六年秀吉百五十石の朱印を附せられ元和三年九月徳川氏改めて百五十石の印章を下附せらる維新

前は學頭無量壽院にて一山の法務を統轄し居りしが去る明治二十八年より惣號神照寺住職を稱呼し無量壽院を兼管す當寺千手觀世音菩薩は聖徳太子の靈作にして弘法大師自作の毘沙門天と共に明治三十八年四月國寶に指定せらる

○國友鐵砲

天文十二年八月葡萄牙商船大隅國種子島に來るや同船は鐵砲及火藥を携へ居れり將軍足利義輝乃ち國友の地を船長某に給し茲に於て鐵砲鑄造及び射撃の方法を教へしむ之れより多くの鐵砲を製し遂に土地の名産となり之れを國友鐵砲と云ふに至れり

○宮川陣屋舊址

神照村大字國友にあり元祿十一年堀田豊前守正休始めて此地に封せられ祿一萬石を附せらる三世正陳に至りて更に三千石を増加せらる八世正養に至りて藩籍を奉還せり

附記

時に長濱の物産を買ふことを忘れ給ふな



一濱縮緬 二天鷲絨 一蚊帳 一眞綿  
 又市中夜の景況を見物に出掛け玉ふも亦一興味あらん玉突を試み芝居を覗き又不夜城を襲ふ等諸氏の  
 意のまに／＼せらるべし

○玉突場

長濱町大字高田にあり正遊俱樂部と云ふ晝夜の別なく天狗連多くこゝに會せり

○劇場

長濱町大字横にありて長榮座と稱す座主は片桐虎之進氏にして年内大抵演劇興行をなせり

○割烹店

- |         |   |    |   |        |   |    |
|---------|---|----|---|--------|---|----|
| 長濱町大字片  | 住 | 吉屋 | 同 | 町大字南吳服 | 魚 | 長  |
| 同 町大字錦  | 山 | 月樓 | 同 | 町大字大手  | 鳥 | 育樓 |
| 同 町大字八幡 | 住 | 十九 | 同 | 町大字高田  | 鮎 | 留  |
| 同 町大字八幡 | 玉 | 德  | 同 | 町大字高田  | 於 | 多福 |

以上は何れも第一流の割烹店なり

○遊廓

(49)

長濱町大字南片妙法寺内に在り一名妙法寺と云ふ青樓十五戸あり内藝妓屋八戸即ち宮川樓、中藤樓、辰巳藤、川島樓、花月樓、萬屋、富田屋、敷島樓之れなり娼妓屋七戸北川屋、島屋、福見屋、高崎屋、大坂屋、淺野屋、石田樓之れなり

遊興費及遊興人員の届出高平均一ヶ月四千五百二十六圓二千五百二十三人位なるも實際は此二倍額位と見て可ならん

○藝妓

總數四十人何れも皆遊廓内に住す縹緞を以て鳴るもの藝を賣るもの座持に妙を得たるものさては肌白慢なるもの千紫萬紅柳に櫻と諸氏の手折るがまゝにまかすべし

長濱遊覽案内終



編者言

以下掲ぐる處の廣告者は孰れも長濱町に於ける確  
實にして信用ある店鋪なり排列の順序に依つて甲  
乙の別なきは勿論なり

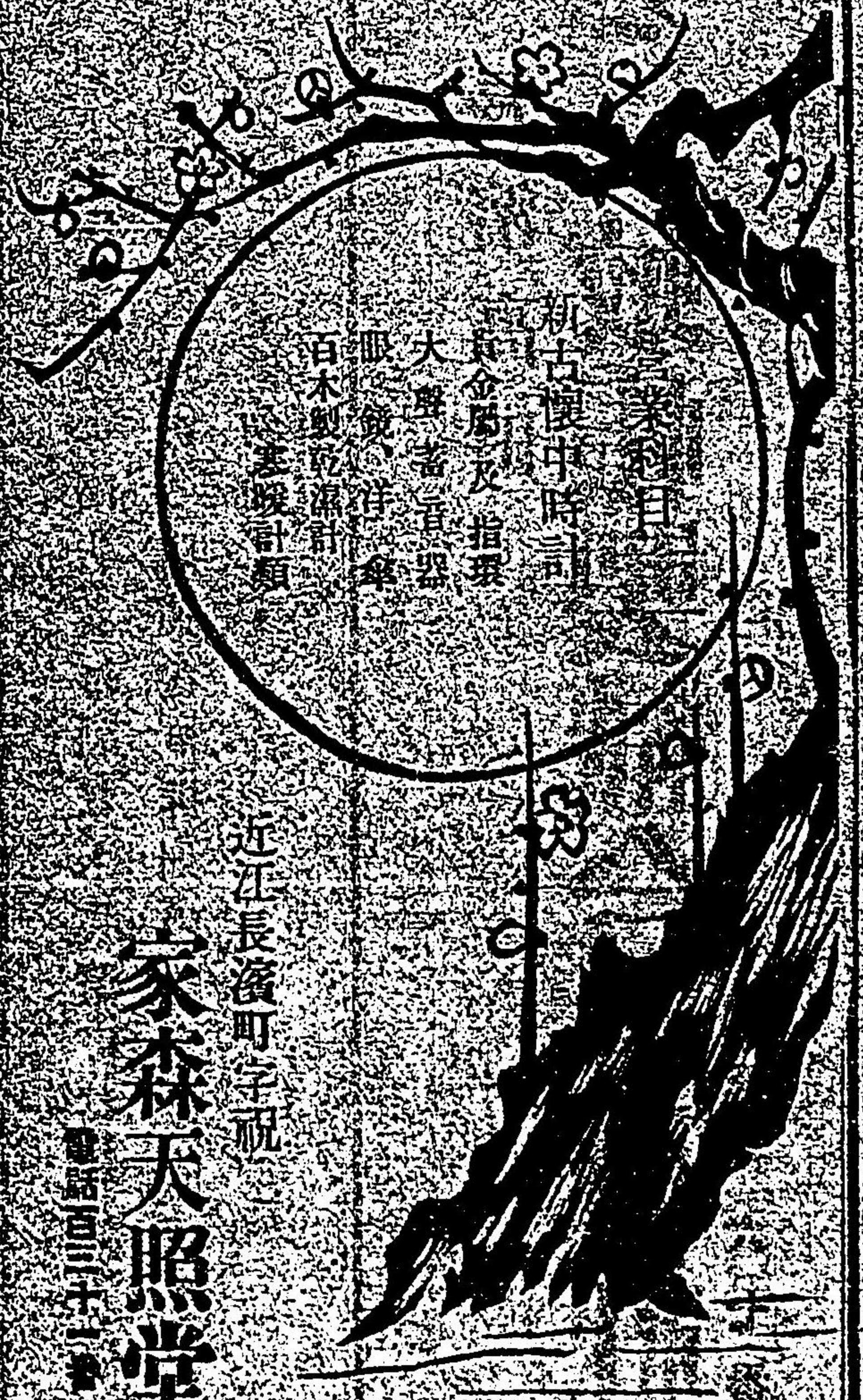
長濱高田

太 蚊帳製衣織合資會社

電話一六七番



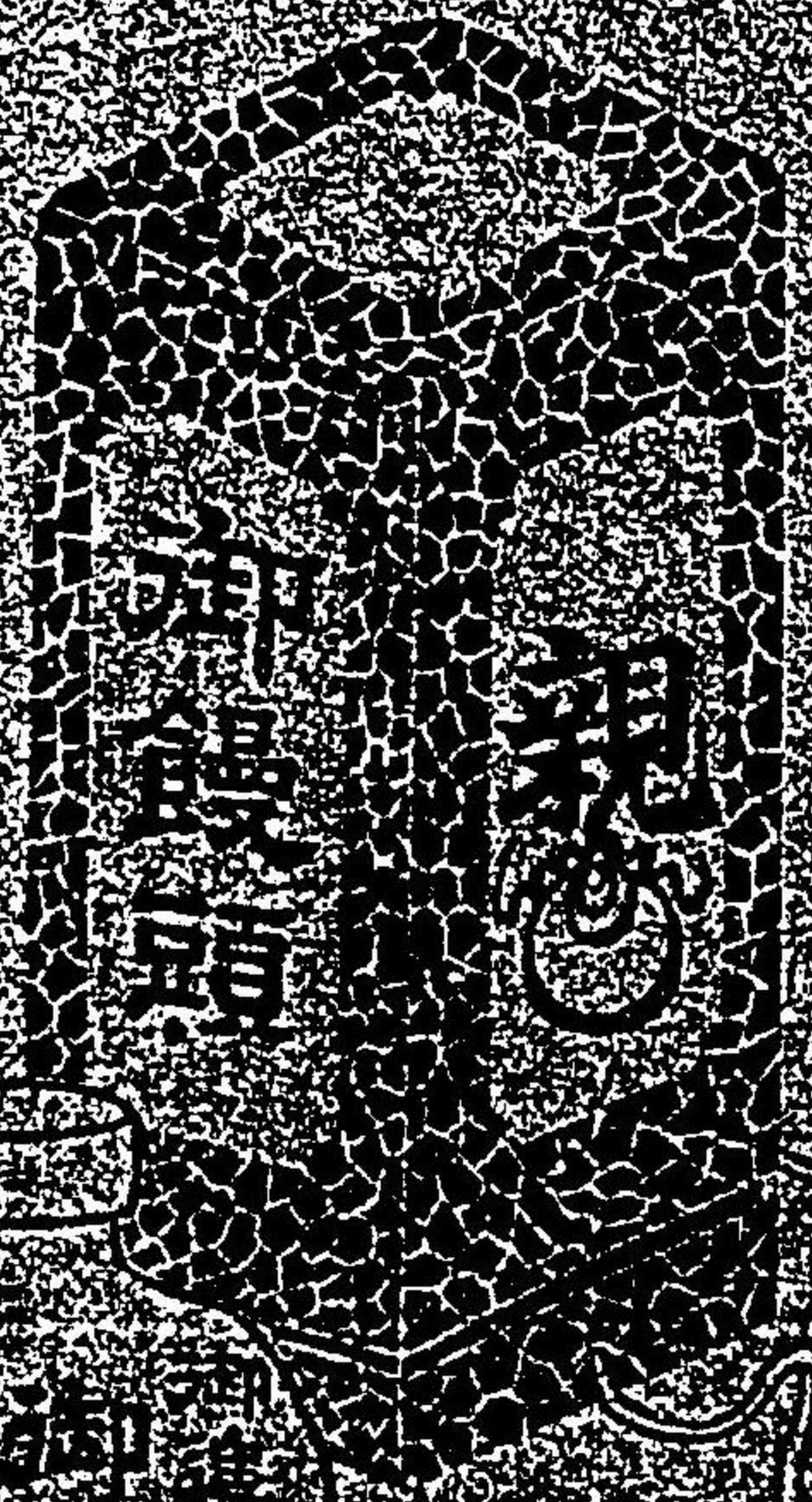
強 勉 實 確



近江長濱町字祝

家森天照堂

皇國三十三





本 保險別低廉 利益金分配

長持の補 被保人無料診療 保険証券擔保資金

# 日本生命 株式會社 近江代理店

近江國長濱市本町三丁目三番地  
振替口座大阪三十三銀行三三三番

支店 大津 水戸 大宮 東京

支店 名古屋 京都 大阪 神戸

支店 愛知川 大井川 大井川

支店 所部 所部



登録商標三番無印

## 近江 張間屋 濱目

近江長濱町大字南吳服

小林茂三郎本店

電話 一七〇七番

小林茂三郎支店

電話 三六〇三五番



# 港屋旅館

中津道治

電話一四三

民國二十九年...

五種...

22	15	8	1	原...
23	16	9	2	...
24	17	10	3	春...
25	18	11	4	...
26	19	12	5	...
27	20	13	6	...
28	21	14	7	...

此...

政進刑

民國二十九年...



藥種 卸小賣商

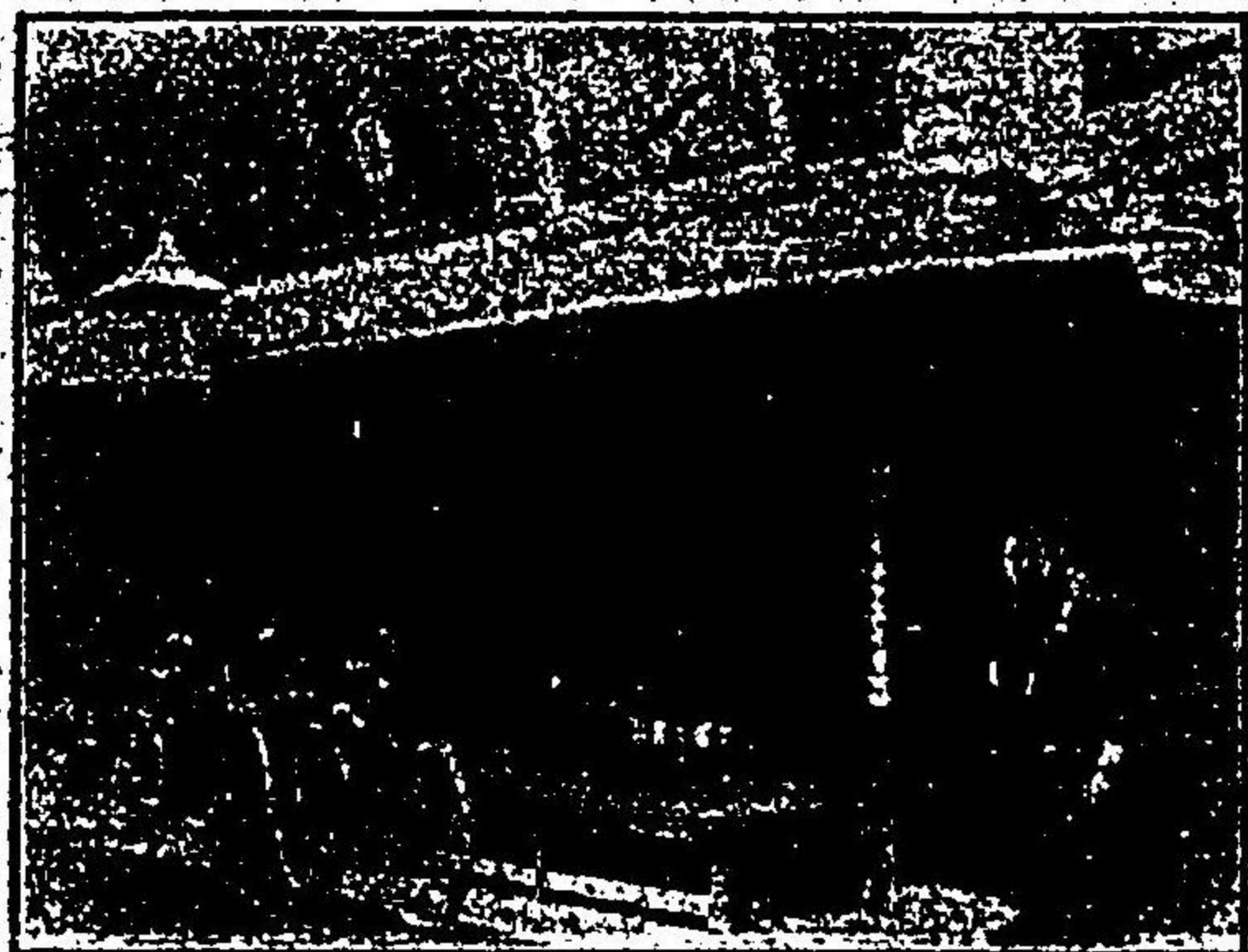
理化學 療器 械

特ニ賣藥類ハ大割引

長濱町字大手

商號 藥音

電話 六八番

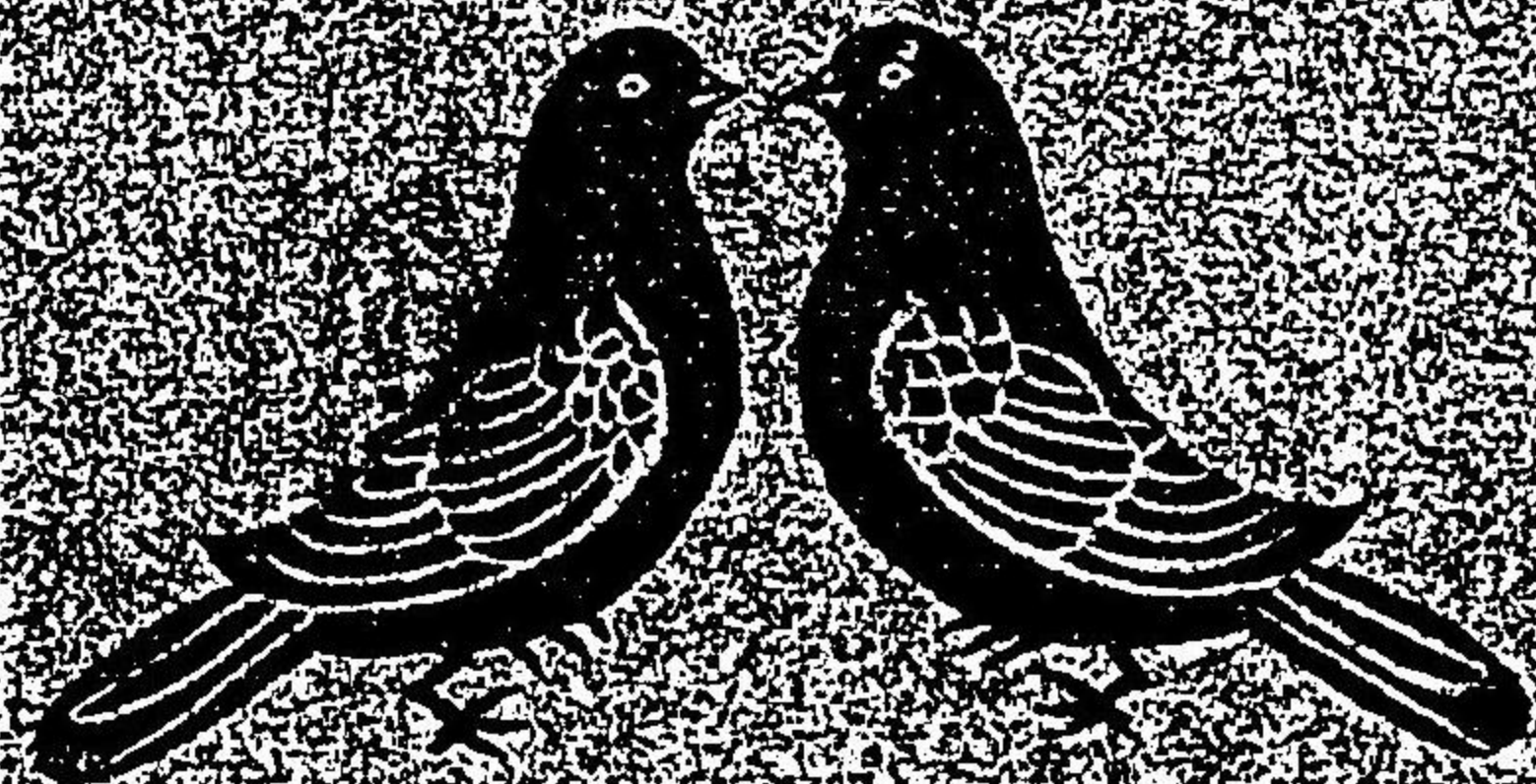


九

HAKKEI-SHA

OMI-SANSHI HANBAI-KUMAI

JAPAN



本日大

合組賣販絲蚕近

社景八

番六四一電長



海 產 乾 物 商

滋賀縣長濱町字祝

宮 本 貞 一 郎

電話六十三番  
電器(ミヤ)又(ハミ)

美聲ナル蓄音機

最新吹込平圓盤音譜

百木製寒暖計類  
乾濕計類

諸ノートル一式

新形割安掛時計大販賣

機械ノ堅牢保證仕候

近江長濱南吳服町

井上天眞堂



諸  
足  
絲  
袋

商

司

布  
半

絲  
店

長濱町

近江長濱町

河崎酒造店

電話五十三番



# 肥料商

近江長濱

## 和

石井四郎平商店

電話 一〇番

越前敦賀

支店所在地

北海道小樽

明治生命保險株式會社代理店  
明治火災保險株式會社代理店

滋賀縣阪田郡長濱町字祝

魚問屋 △納安商店

中澤安治郎

電話 五十八



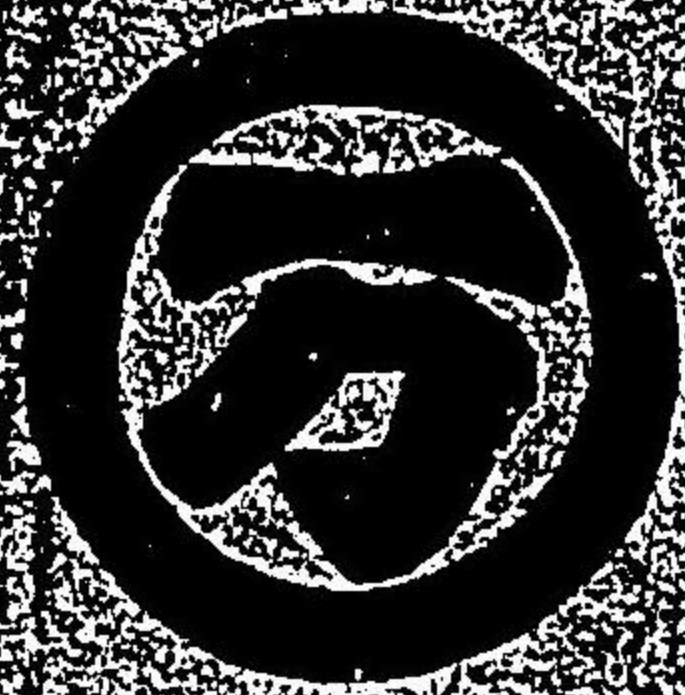
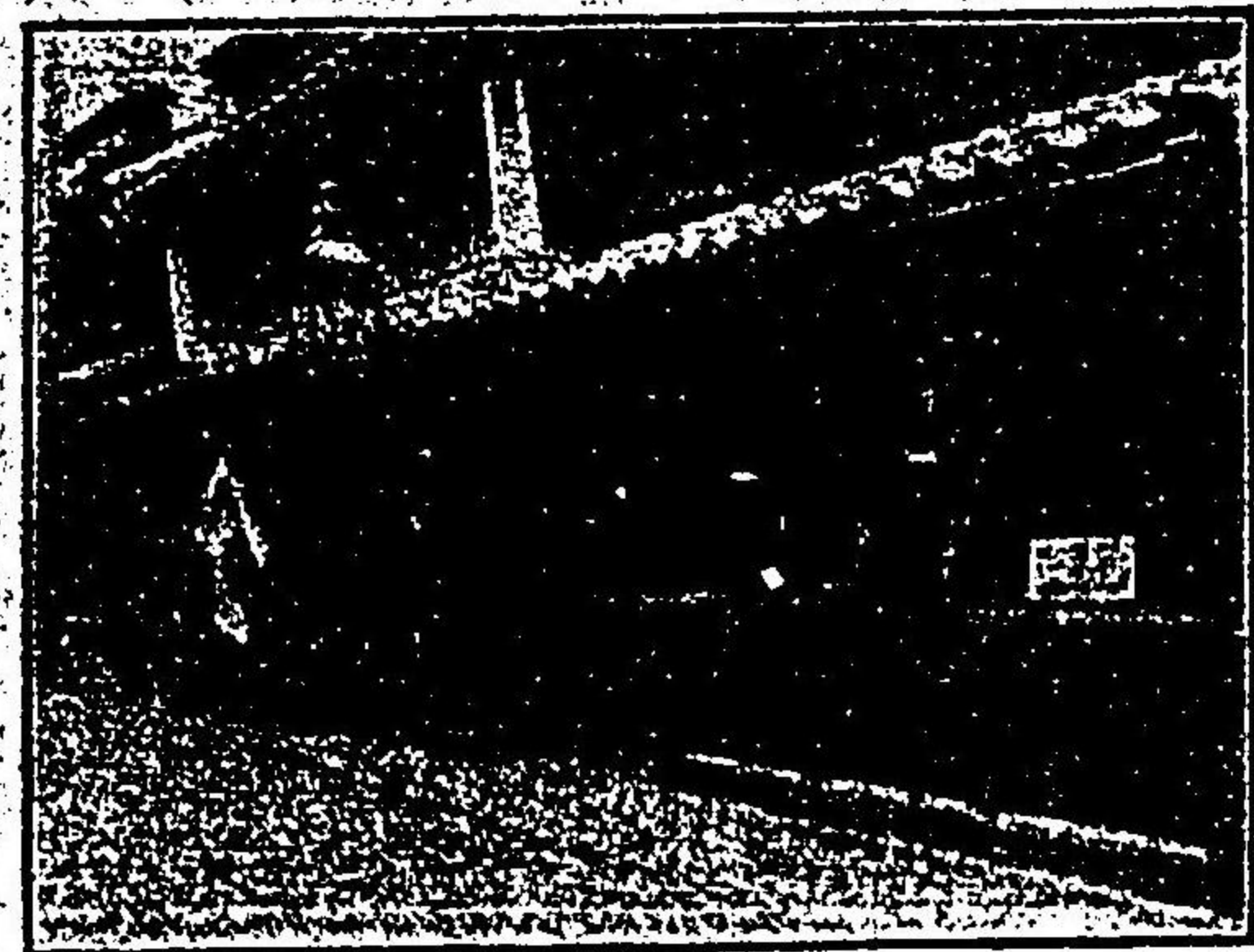
吳服太物洋物類各種  
 室內裝飾織物類各種  
 刺繡天鵝絨友仙各種  
 濱縮緬

佛國巴里萬國大博覽會銀牌  
 米國聖路易萬國大博覽會銀牌  
 日英博覽會銀牌  
 內國各博覽會共進會金銀銅牌

東 木文吳服店

滋賀縣長濱

電話一三番



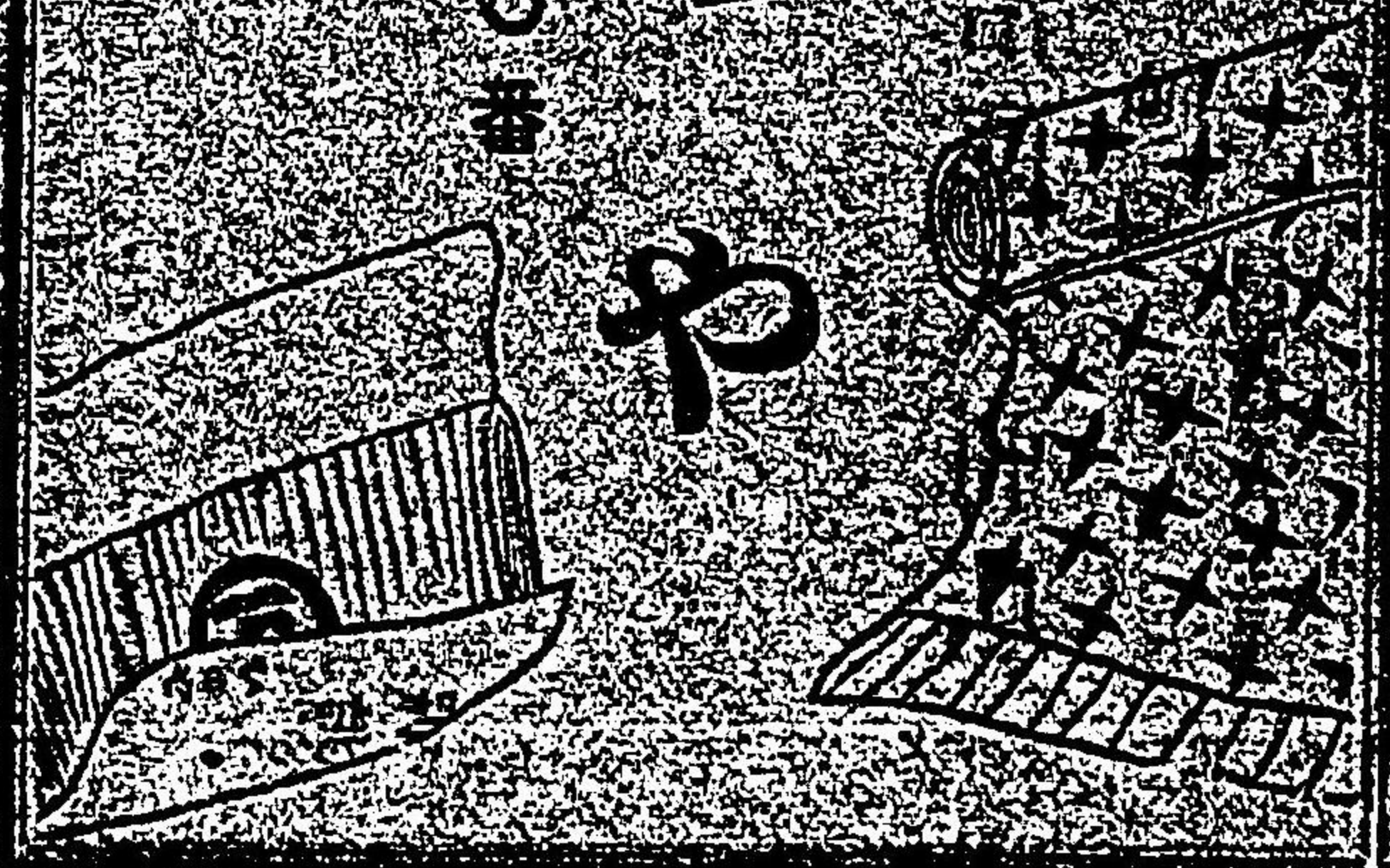
吳服太物

長濱新町

ひのや

電話一三番

祝儀宗袖





繪具染料  
建築壁用品  
商



合

近江國長濱三ツ矢町

三橋治郎八商店

西條 近治

電話二〇三番

内外  
米穀商



長濱町字祝

大久保太三郎

肥問屋

長濱町

保多屋



# 各國銘茶

愛知縣主催第十回關西府縣聯合共進會褒狀受領

東京  
大浦貞治郎

小庄賣

風穴盆種八五月十日ヨリ九月十日迄



商標  
長  
蠶種

日下休...

直段確

町屋治銀濱長

福田商店



京染悉皆所

新員 宗頼

長濱 大手橋西詰

各四



十

三

や

萬小間物

並

半袋

ら 名 も

い の

町 大 濱 長 州 江

や

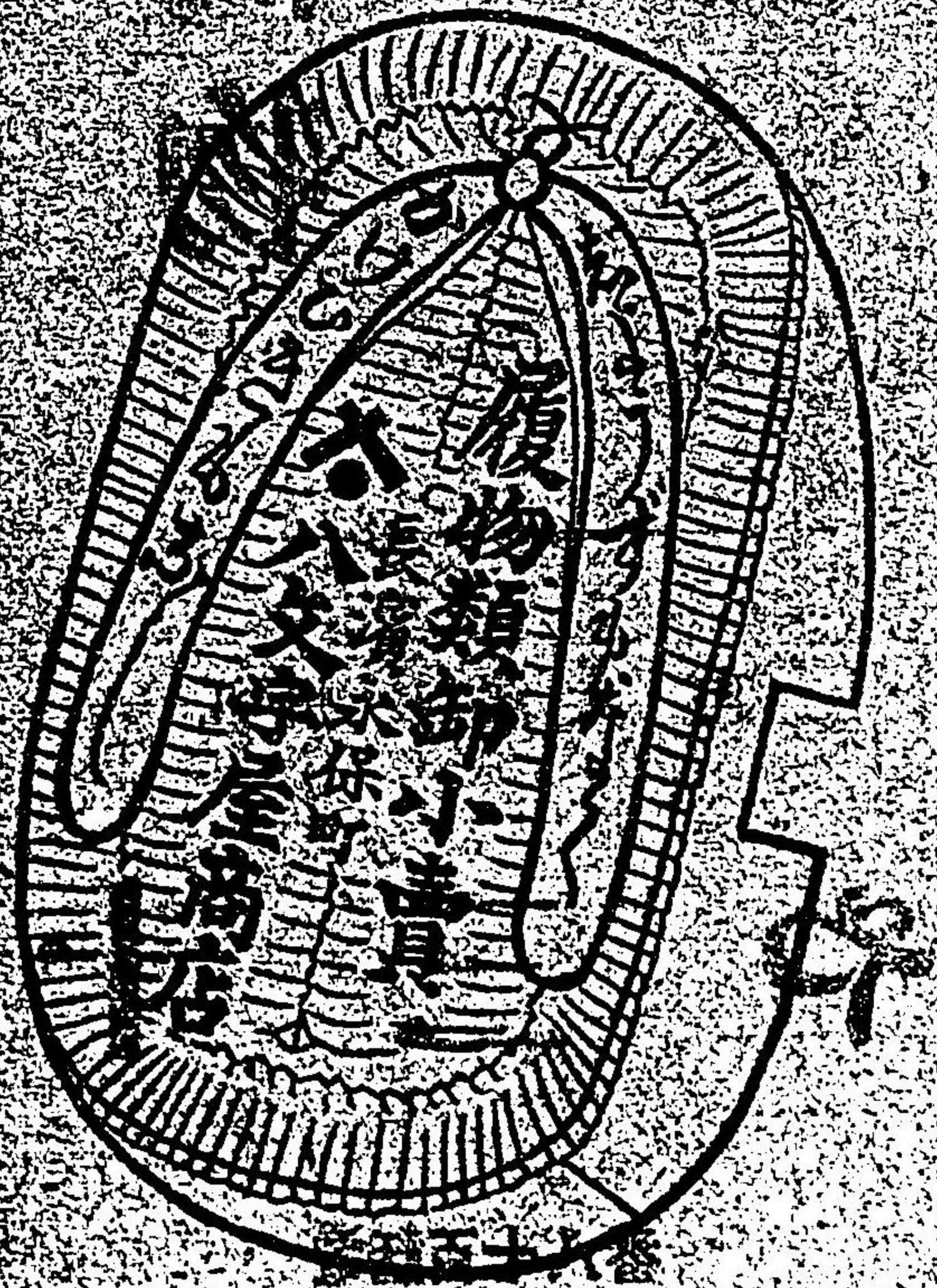
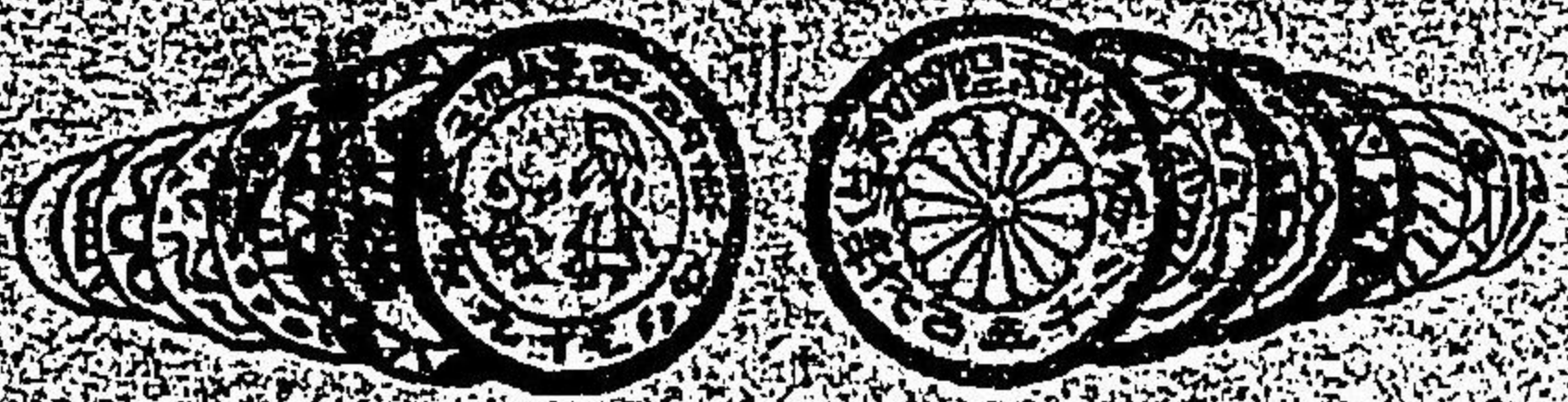
三

十

番八十百話電



金銀賞牌受領



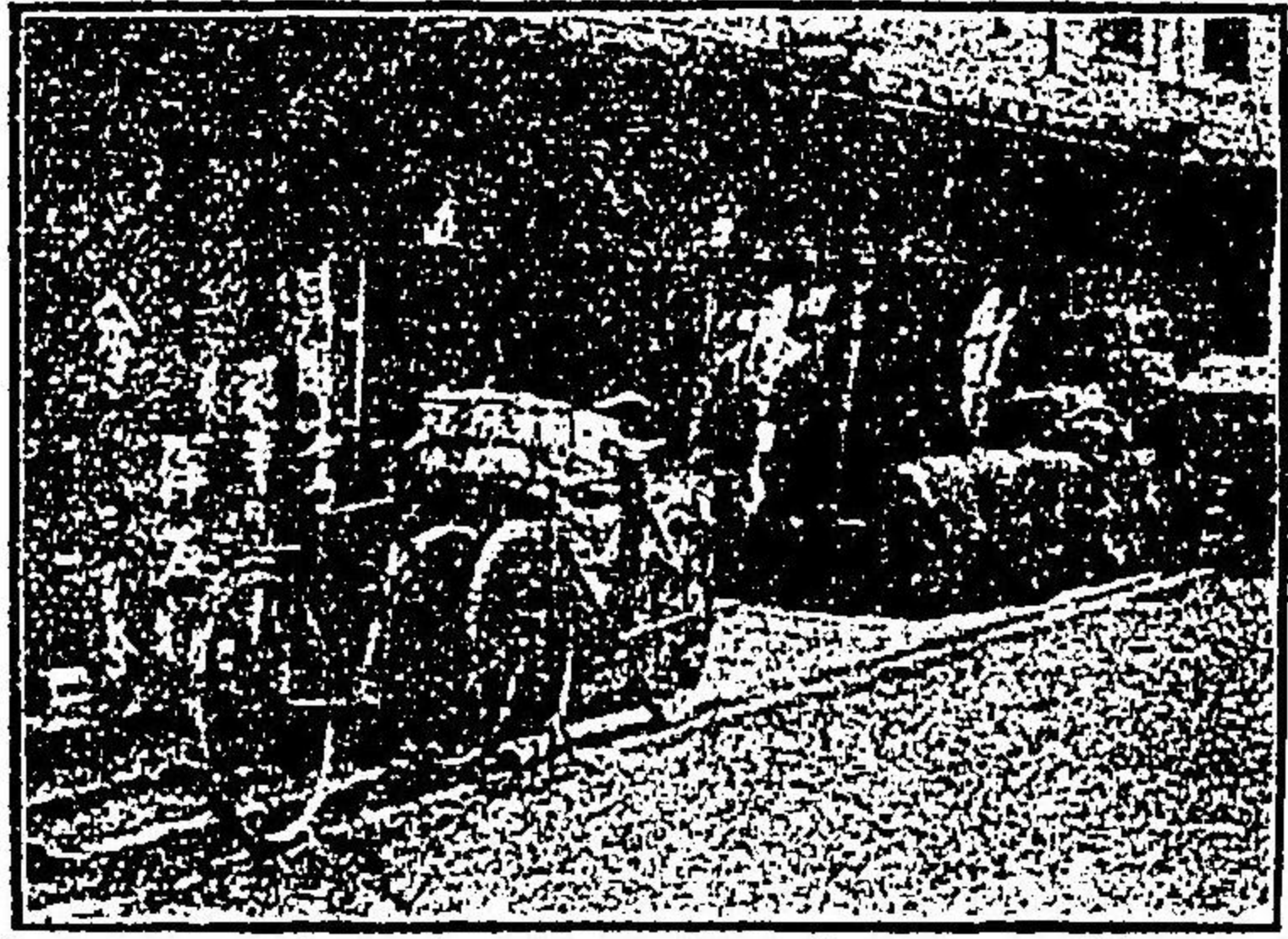
生絲委託  
販賣業

長濱町大字伊部  
中荒長

中川幸平

電話二三番





西 木半吳服店

近江長濱町

電話百〇三番  
電話(キハ)

藥

長濱宮町

清眞堂

若森彦三郎

振替口座大阪一〇五六七番



# 舶來雜貨商

長濱町中吳服



高木商店





# 舶來雜貨商

長濱町中吳服



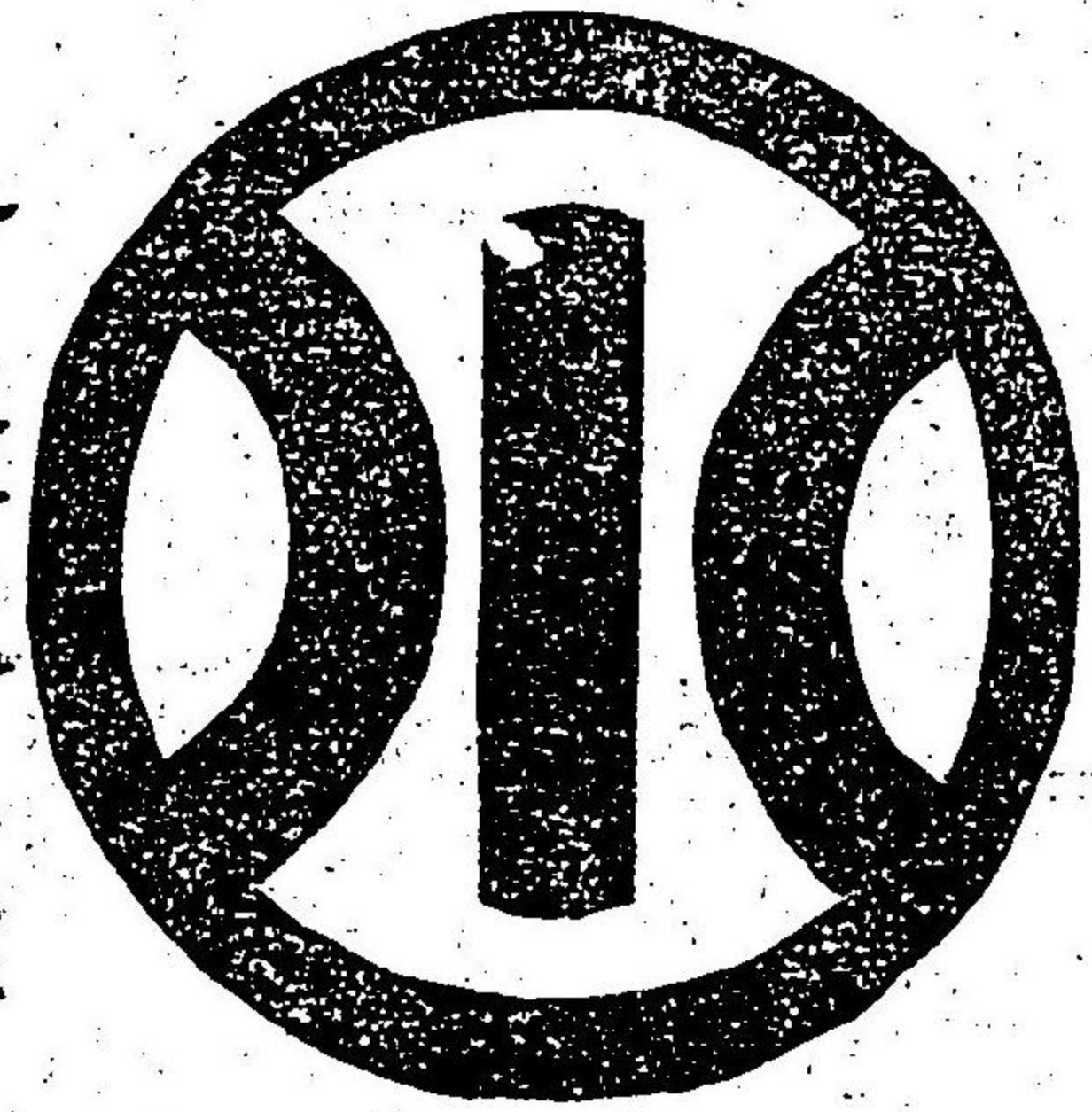
高木商店





商標

全國蓄油共進



會褒狀受領

滋賀縣長濱町  
商號紙重  
河路重平商  
店  
長電話貳參〇番

洋服裁縫專門

長濱永保町

柳本三佐吉



# 高 等 洋 服

並 = 内 外 雜 貨

近江長濱町

岩 根 養 福 堂

電話一六六番  
振替東京八二五四番

大阪京町堀三丁目

岩 根 養 福 堂 支 店

運輸百搬の事業



近江國長濱北船町

北利運送店

電話三二番

懇切に御取扱可申候



# 高等洋服

並ニ内外雜貨

近江長濱町

岩根養福堂

電話一六六番  
振替東京八二五四番

大阪京町堀三丁目

岩根養福堂支店

運輸百種の事業

近江國長濱北船町

北利運送店

電話三三番

懇切に御取扱可申候



# 濱縮緬

眞綿蚊帳

長濱町

兼 沓水清次郎

電話十八番

大阪市東區本町二丁目

同 支 店

電話東一六六七番



英國皇  
室御料

帝國遞信省御用

# ラヂ

長濱驛前

清水自轉車店



紙乾物  
表具品商

長濱町大手橋

玉八商店

西田富藏

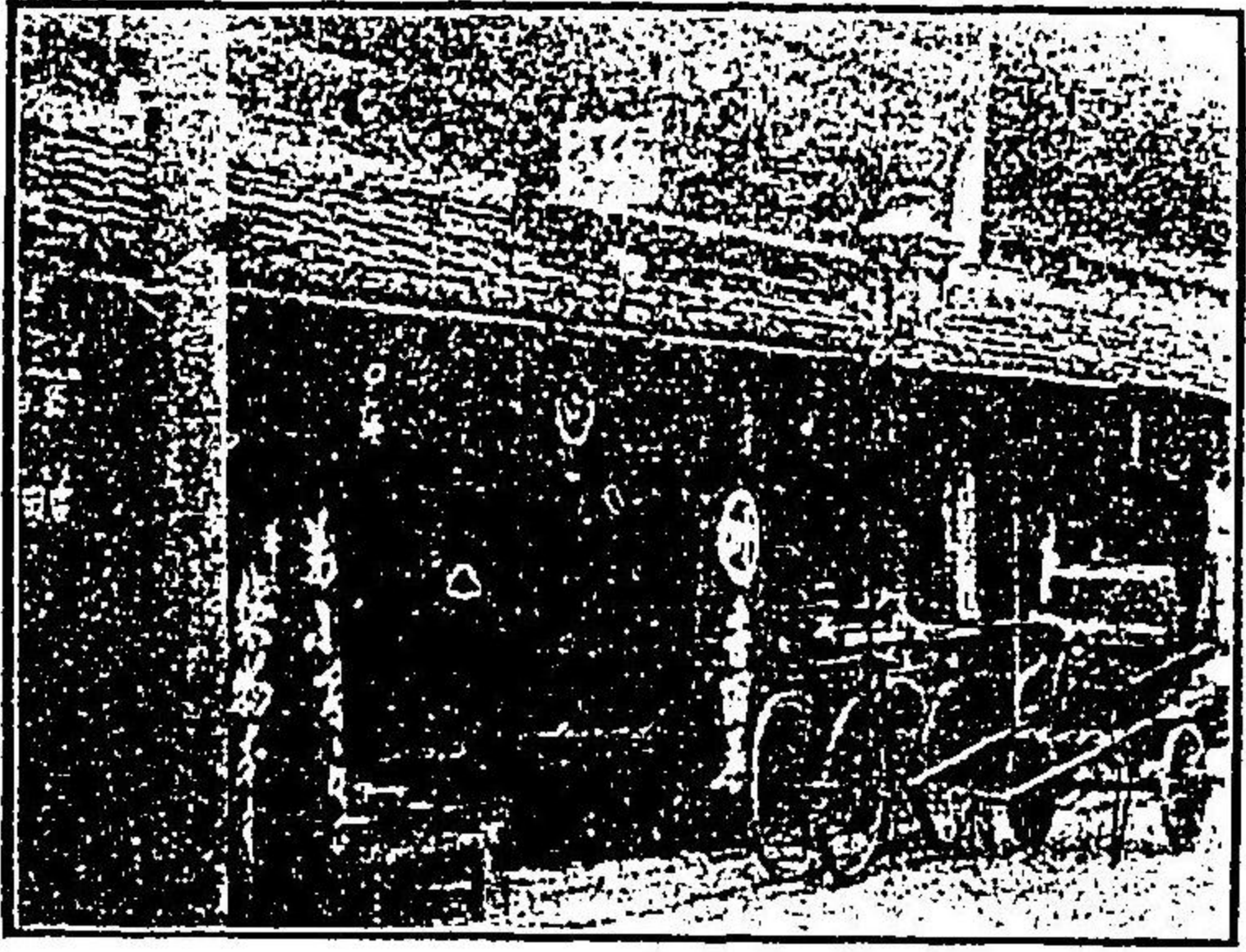
鹽醬油

商號玉與

今西重吉

近江長濱郡上





美術小間物

貴金屬類

半襟帶揚ケ類

長濱宮町

吉田屋

電話五十七番

三十八

近江長濱



電話七十二番

乾物青物

食料罐詰

和洋菓實

いろいろの

メヅラシキ

品の有升は

眞下商店

三十九



紙筆墨

印刷

商號 紙平淡海

川路豐吉

長濱吳服町

長濱電話一五三番

萬荒物 蠟燭 香具  
蠶表 蠶具

長濱宮町

雜貨商 久米善商店

世界一堅蠟塔印石蠟特約販賣店



# 物貨運送業

長濱船山町

德田吉彌本宅

長濱警察前

德田運送店



長濱驛前

德田運送店出張所

電話二三〇番甲

電話二三〇番乙

TRADE MARK

線香薰香燒香

各宗佛寺院  
神用香具所

近江長濱北町  
居川光觸堂



貨物運送取扱

確實 迅速 鄭重

橫濱火災信用保險株式會社代理店  
運送 海上

進 內國通運株式會社取引店

長濱町南船

介 吉田運送店

長濱停車場前

電話二六番甲

吉田運送店出張店

電話二六番乙

海陸物産 芋  
諸乾物 問  
生果 屋

北陸線近江長濱町

商號八百外

三 瀧野外吉

電話略號(力子三)  
電話百六十四番



各國漆器銅器佛具類

長濱祝町

# 全川茂商店

北川茂三郎

附て 流行の各種乳母車大勉強販賣致居候

第四回内國勸業博覽會褒狀受領

## 精撰醬油

# 高

商號 翹太

大日本産業博覽會進步銅牌受領

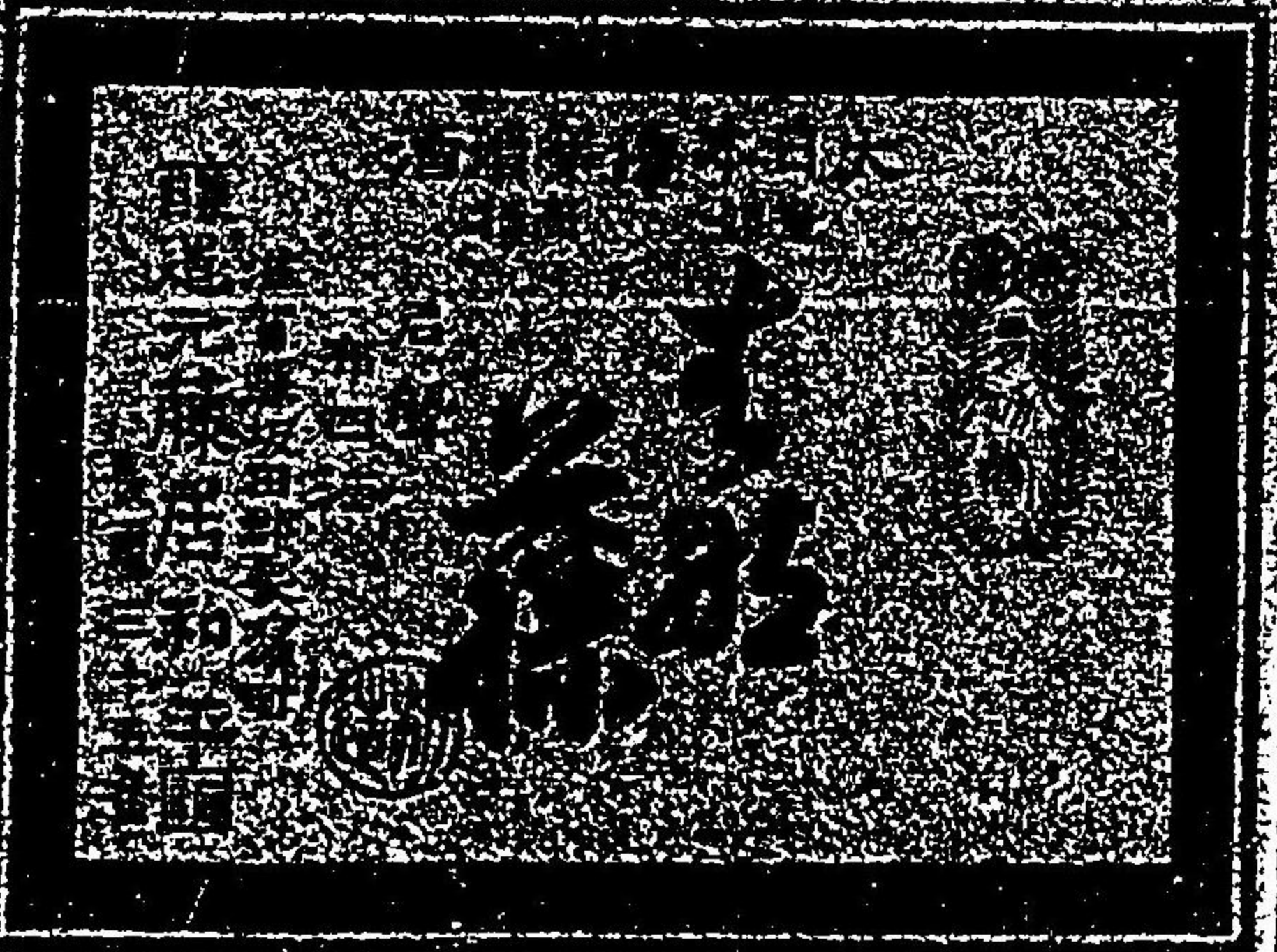
### 藤井太一郎

近江長濱

長電話二〇二番



滋賀県一挙販賣



長

喜樂せんべいは

御堂前裏門の角

濱

日出饅頭は

有

横町長榮座前

名

今度産れ出た和洋菓子

饅頭煎餅の勉強店は

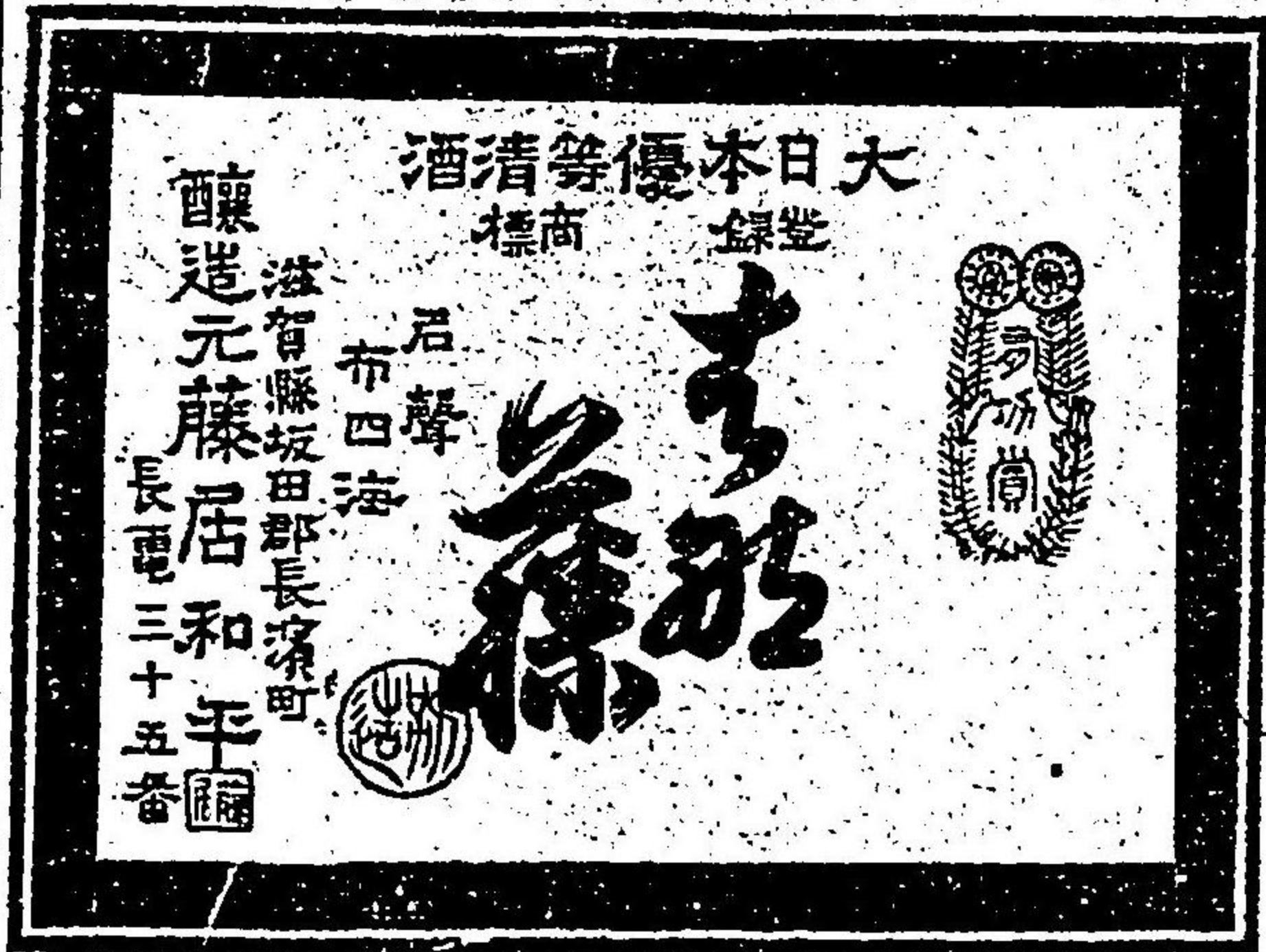
の

停車場前の

喜茂玉



滋賀縣一挙販賣



四十九

長

濱

有

名

の

喜樂せんべいは

御堂前裏門の角

日出饅頭は

横町長榮座前

今度産れ出た和洋菓子

饅頭煎餅の勉強店は

停車場前の

喜茂玉

四十八



資本金參百六拾萬圓



株式會社

長濱町大字大手

明治銀行長濱支店

電話六六番

本店 名古屋市西區傳馬町

支店 金澤、豐橋、熱田

出張店 鳴海、下ノ一色、名古屋市内、南、西、東、

尾頭

●資本金貳百萬圓



株式會社

近江銀行長濱支店

電話三八番

近江國阪田郡長濱町大字錦

頭取 池田經三郎 取締役 西田庄助  
 取締役 前川善三郎 同 阿部房治郎  
 同 瀨尾喜兵衛 監査役 伊藤忠三  
 同 薩摩治兵衛 同 北川與平

本店	大阪市東區備後町參丁目(電話東九六一番、九六三番、九六三番)
東支店	大阪東區農人橋詰町 高宮 支店
西支店	同市西區立賣堀南通 日野 支店
京都支店	京都市烏丸通 八日市支店
大津支店	大津市阪本町 春照出張所
愛知川支店	近江國愛知川 多賀出張所
能登川支店	同 能登川 豊郷出張所



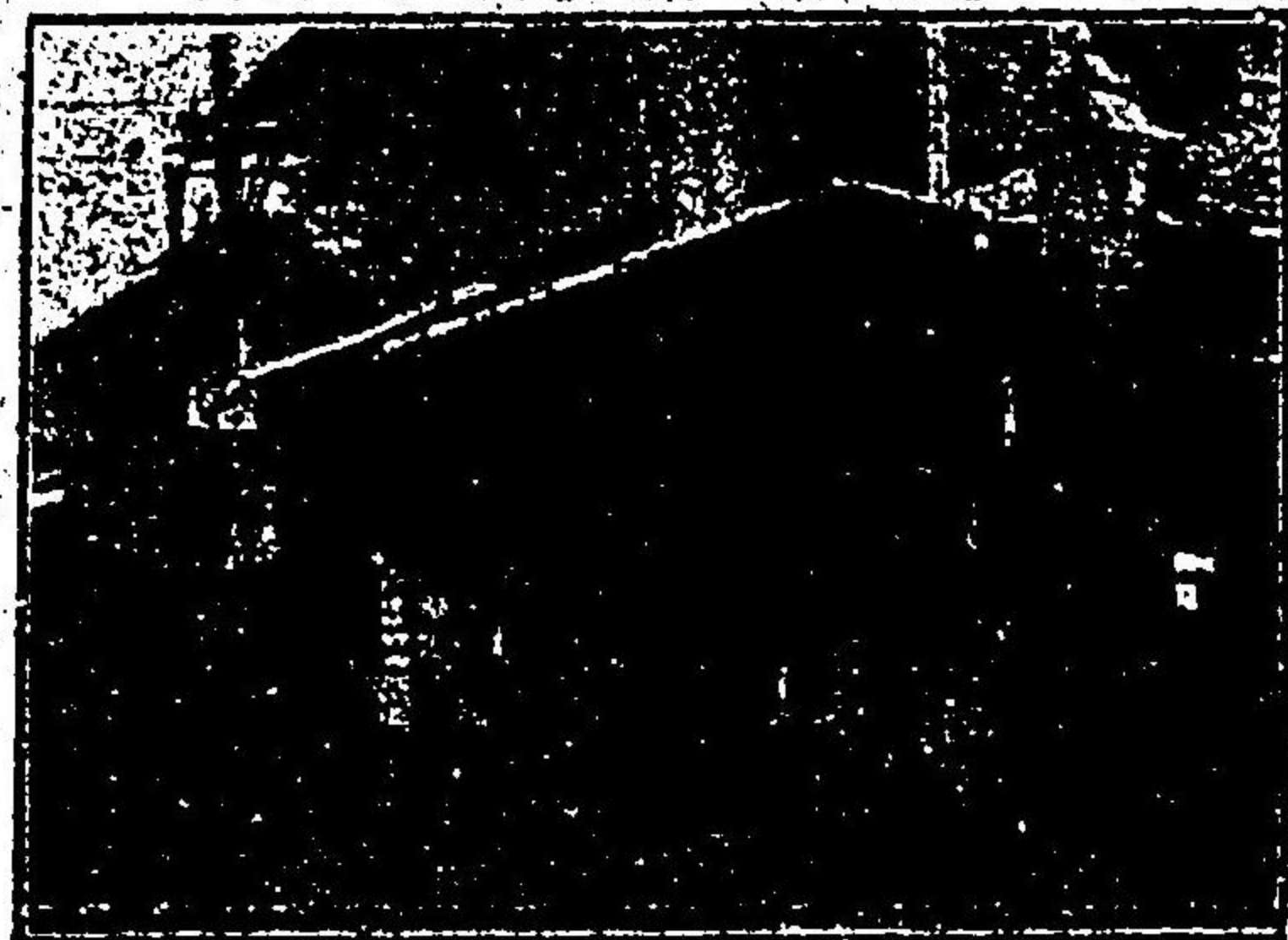
蠟燭 香具 學校用品  
 文房具 紙類一切 ビール  
 煙草 油 元結  
 其他雜貨

伊部町角

# △會津屋

電話百五十五番

御用の節はすぐさま持参致します



福壽生命保儉株式會社長濱代理店

近江長濱南吳服町

生糸委託販賣  
 濱縮緬眞綿商



## 北川庄平

電話二十三番  
 電器(〇シヨ)



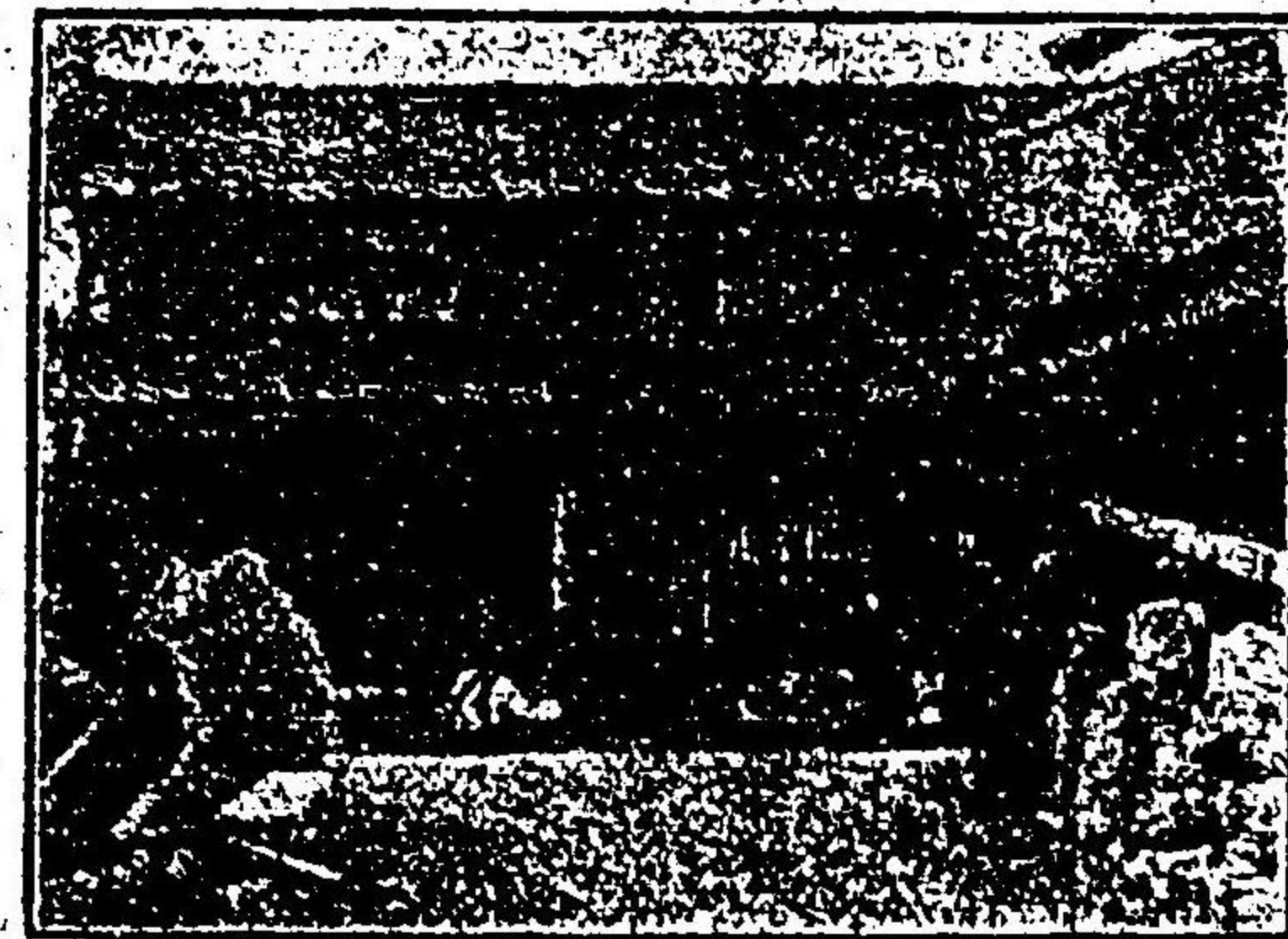
石材販賣各種ノ印刷

弊店ノ本領

誠實ヲ縉シトシテ勤勉ヲ經ス  
 店員一員ニ業務ニ盡瘁シテ價格ハ極メ  
 テ低廉ニ御用込達シテ候間多ク少ク不  
 續々御用命ノ程奉希候 敬白

石壽商店

近江長濱北船



運送店

中原本店

近江長濱停車場前

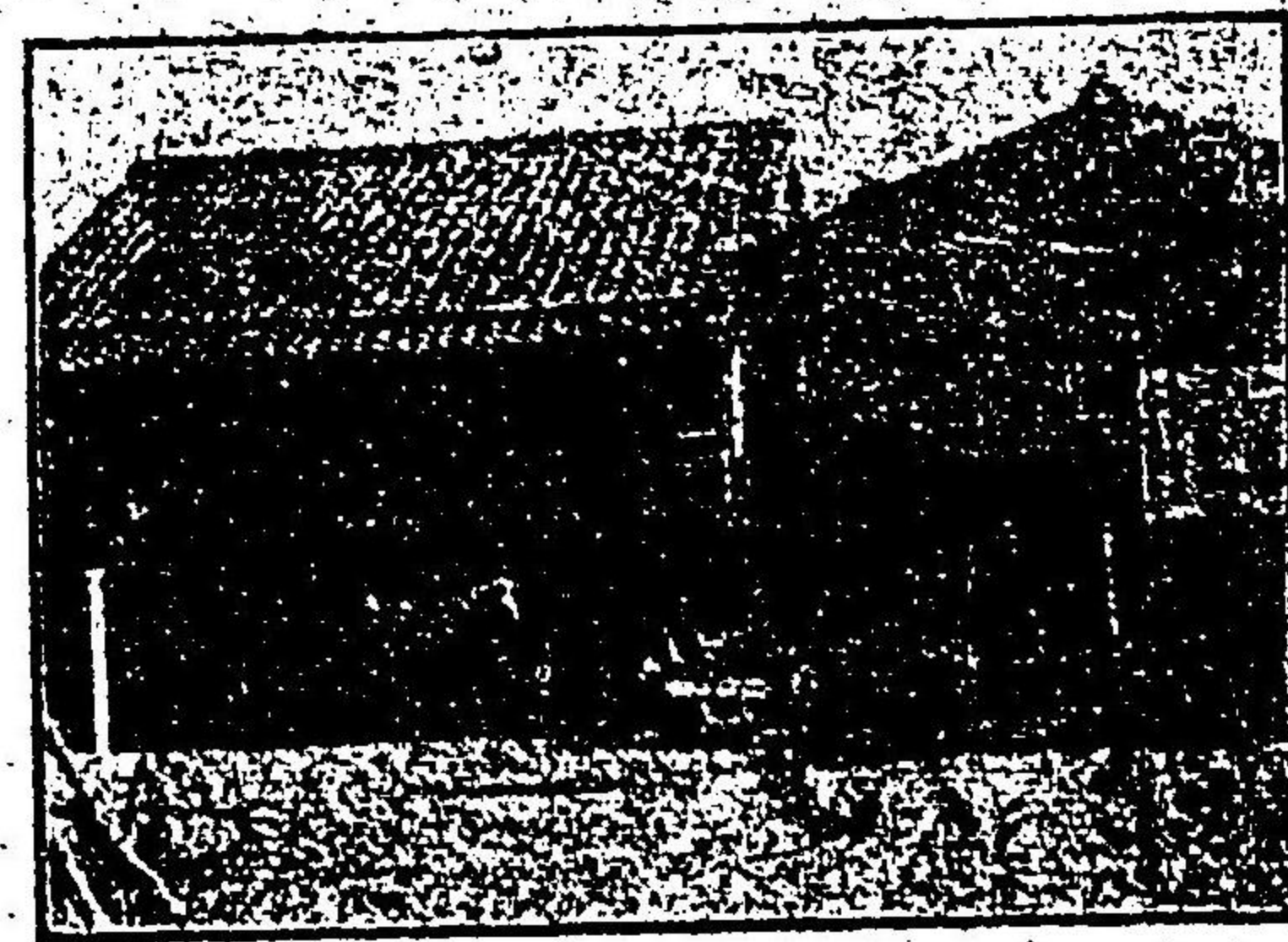
電話四七番  
 大阪三六〇番  
 振替口座

旅館

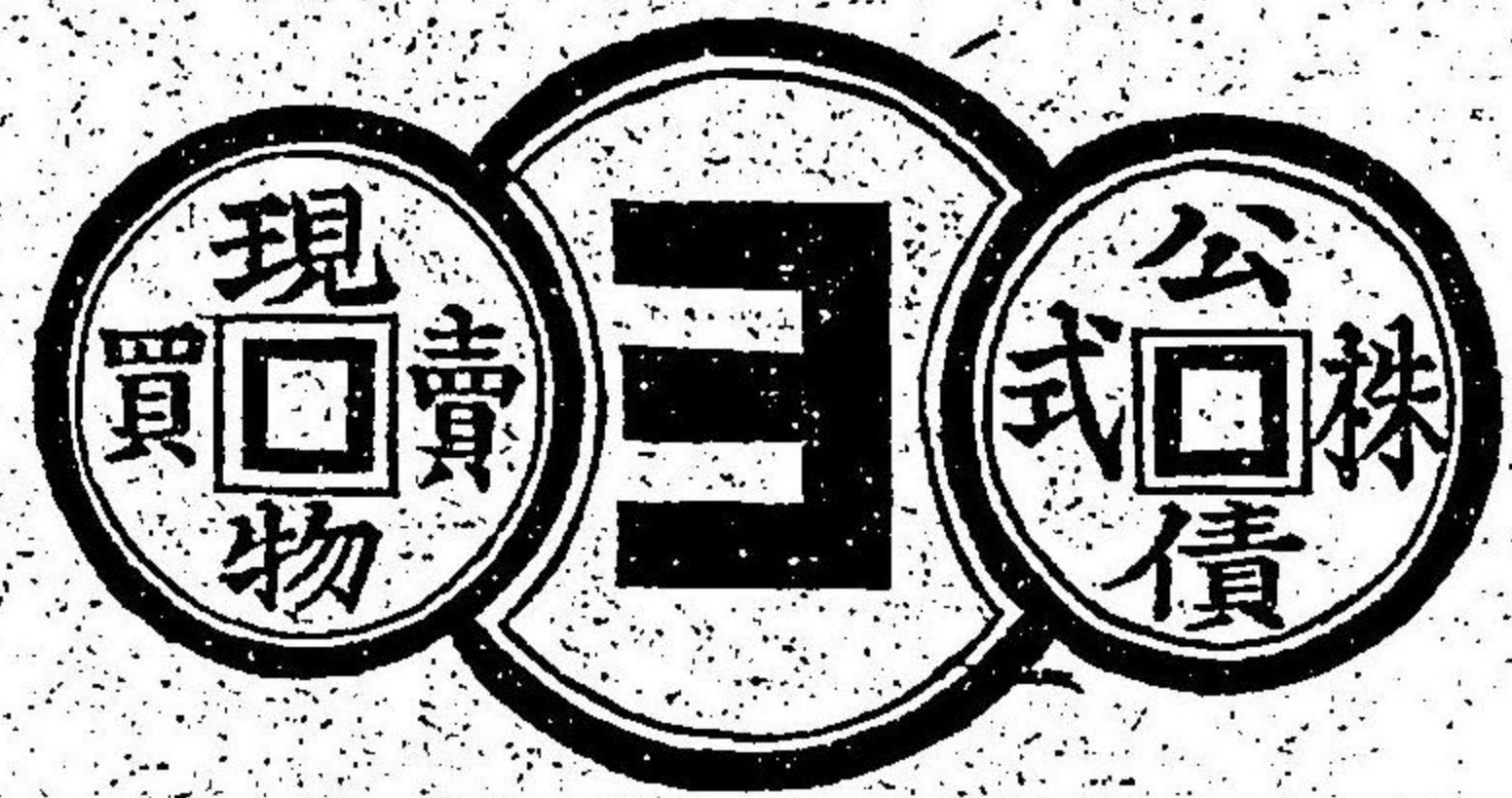
中原支店

京都市柳馬場四條北入

電話三九五七番







諸公債證書  
諸株券賣買

近江長濱町

宮島商店

長電話二九番  
電信略號(三)  
宮島屋三郎

旅館

長濱船町

いかりや

一〇七番

STANDERDOILCO.

スタンダード石油會社特約代理店

種油製造營業

村瀬忠平

近江長濱南船

種粕製造營業

村瀬嘉平

營業品目

上松石油

上勝利石油

虎印石油

種油

鑽油

油類

各油類



# 旅館

長濱船町

## いかりや

一〇七番

STANDERDOILCO.

スタンダード石油會社特約代理店

種油製造營業

忠 村瀬忠平

近江長濱南船

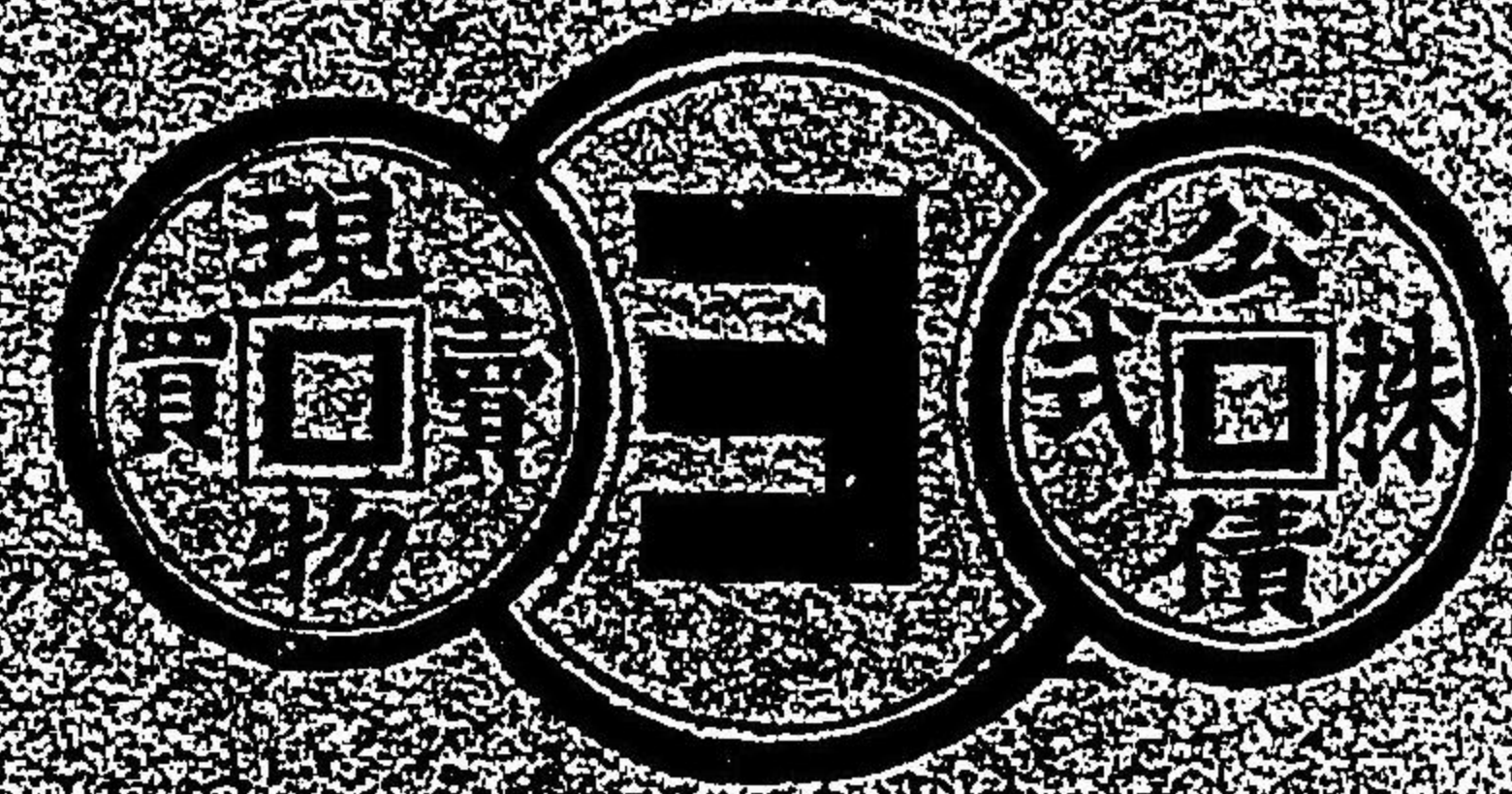
分 村瀬嘉平

種粕製造營業

營業品目

上松石油  
上勝利石油  
虎印石油  
種油  
鑛油  
各油類

五十七



諸公債證券  
株券  
買賣

近江長濱町

官島商店

長濱三九番  
官島商店

五十六



### 祝發刊長濱遊覽案内

大阪朝日新聞

大阪新報

大阪時事新報

滋賀日報

東京各新聞

長濱町大字御堂前

## 太田新聞鋪

電話百廿二番

### 取次所

營業科目

書籍	雜誌	貸本
文房具	繪葉書	額縁

# かしわ

長濱大手町

# とり寅



物理化學器械

醫用器械一式

和洋樂器

唧筒製作

並二鐵工

彦根齋藤器械店

販賣修繕所

長濱出張所齋藤四海堂

蘭生糸縮緬商  
藝娼妓紹介業

長濱町大字錦三十三番地

中川伊三郎

器中作舟

濱角慢

和洋菓子製造所

近江長濱

山下松章



●買仲物現券證價有●

問生  
屋絲

今  
川上米藏商店

近江長濱字三ツ矢町

電話二一〇番

六十三

濱 縮 緬  
生 糸 商  
今

喜 鍋 號 商

上郡字町濱長江近店本

番一五一話電長

角町堺通條三市都京店支

番〇六三一話電長

店商平喜村中

六十二



倉庫業  
生繭乾燥業

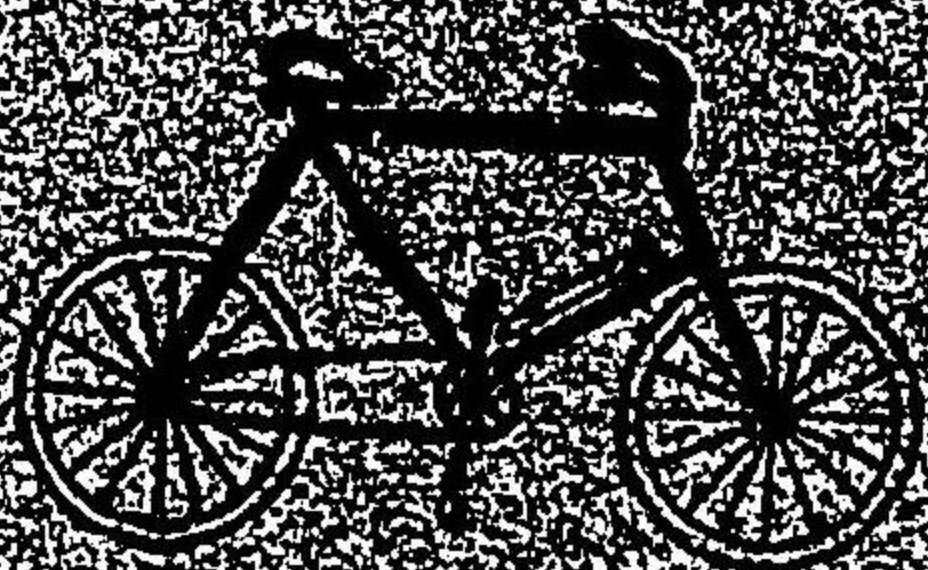
滋賀縣長濱町

琵琶倉庫株式會社

電話一〇八七番  
電器號(〇七)又(八七)

乾燥繭保管の爲め完全なる  
倉庫の設備あり

歐米各國自轉車附屬品



三人乘車

販賣店

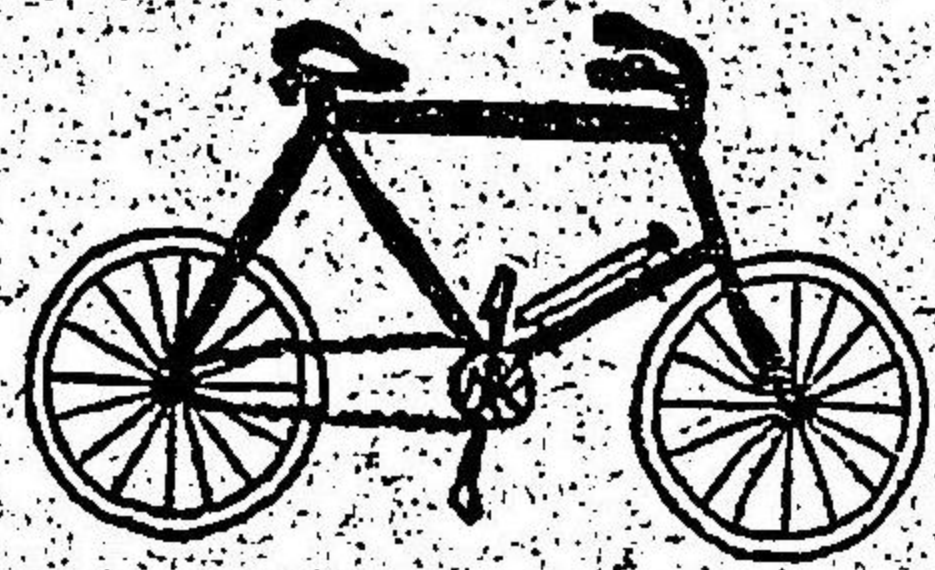
井上商會

大井上商會



歐米各名國自轉車附屬品

ゴム人乗車



バイクアダクト號

販賣店

長濱町

井ノ上商會

支店

六十五

倉庫業  
生繭乾燥業

滋賀縣長濱町

琵琶倉庫株式會社

電話一〇七二八(七)

乾燥繭保管の爲め完全なる  
倉庫の設備あり

六十四



全國共進會

桐材

介紹廢物商

荒物

銅牌銀牌受領

卸小賣

滋賀縣長濱町

大西林八本店

六十六

建築請負業

長濱

尾木源右衛門

電話一三三番

六十七





玉川

銘酒

極寒烈

近江國長濱町今村釀造

長電二番



六十八

正運堂

七番

於名古屋共進會  
銅牌受領

寫真

創業明治十年

永久不變色 引伸肖像

夜間撮影

長濱町八幡神社前

金玉堂寫真館

長電一四番

六十九



# 御料理

長濱町大手

## 魚長

電話一三三番

# 旅館

長濱停車場前

## 中村屋

國電話六七番

# 旅館

和洋御料理

鑛泉特別温泉

◎佐賀縣湧田天德鐵冷鑛泉滋賀縣一手販賣  
本鑛泉ハ強壯補血天下ノ一品ニシテ北里醫學  
博士ヲ始メトシ名醫藥學博士等ノ証明澤山ア  
リ

長濱停車場前

## 靜養館

館主 日比表吉

電話八番

# 海陸運輸

北陸線長濱町大手

俵

飯田運送本店

電話六九番

支店 京都御幸町蛸藥師下ル

電話三四四八

出張所 大津市橋本町

出張所 彦根町本町



京都都鳩居堂名香取次所

鹿印コシデンミスルクル特約店

日野正野感應丸支店

弊店ハ有効確

實新鮮ナル藥

劑ヲ供給スル

ヲ以テ特長ト

ス

藥

長濱神戸町

問

屋

保多忠藥店



青物  
干物

果實  
罐詰

商

卸賣  
小賣

近江長濱町

笹原眞肖堂



洋服調進所

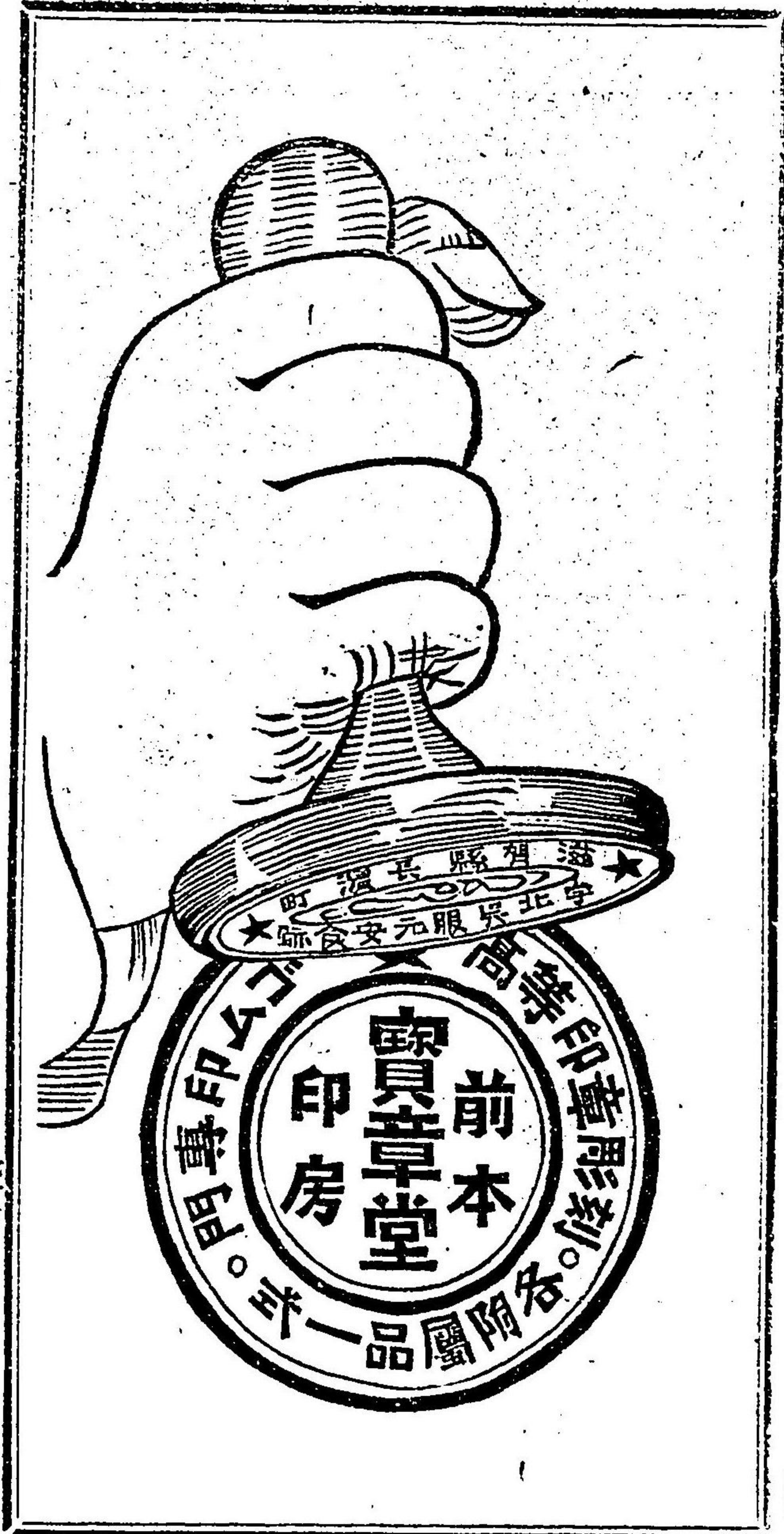
並舶來雜貨

外ニ腫物下シ藥販賣

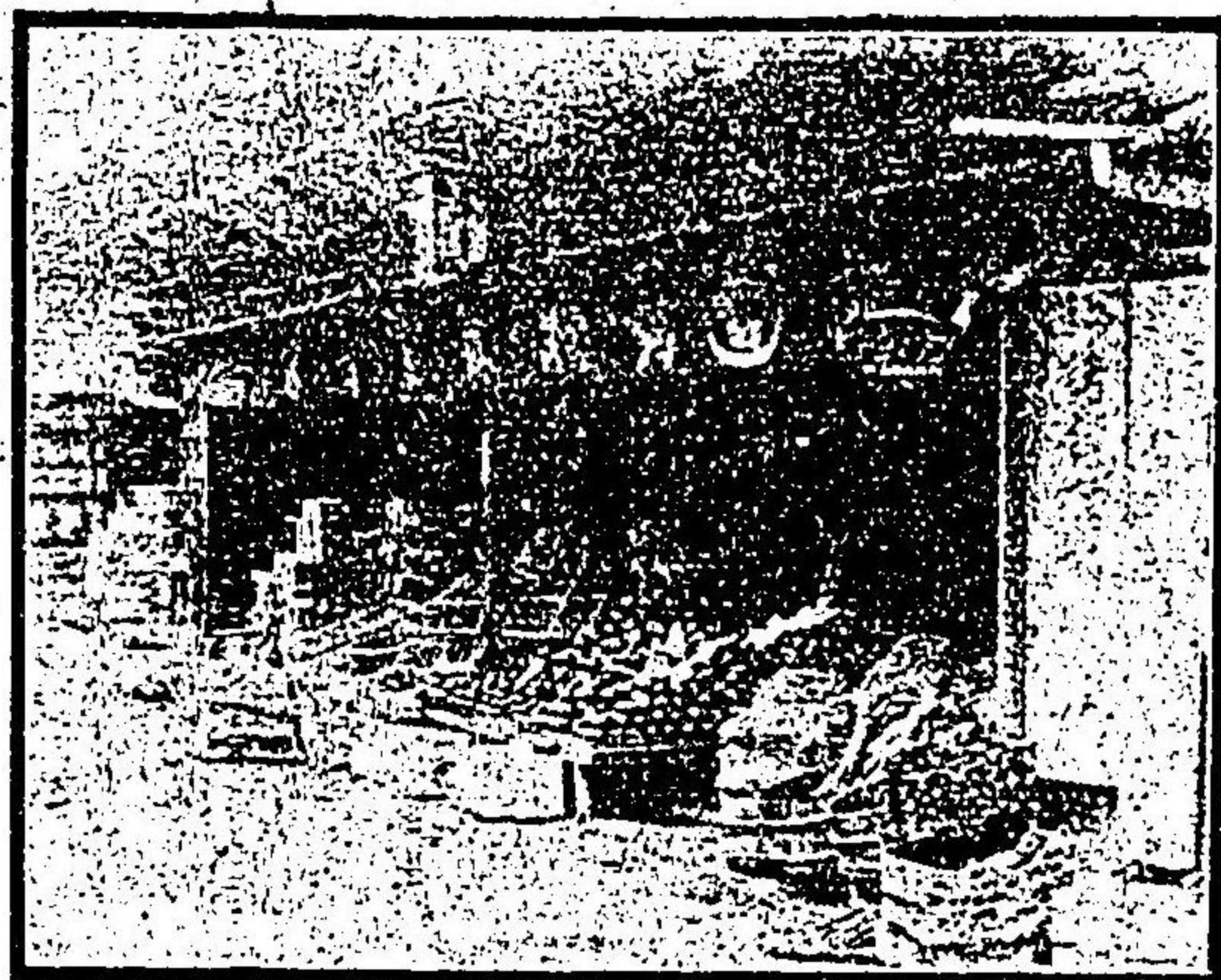
長濱大手町

元西川事

小川眞景堂







青物 乾物 食糧 罐詰

近江國長濱西魚屋町

眞下万平

(電話一三八番)

七十六

營業品目

- 各國產紙
- 文房具
- 教育用品
- 和洋帳簿
- 各種紙製品
- 手工材料
- 日用雜貨
- 內外石鹼
- 大將マツチ

弊店儀從來前記目錄ノ通營業罷在候處今回活版部新設仕リ極力勉強可致候間何卒御引立被下度奉願上候 敬白

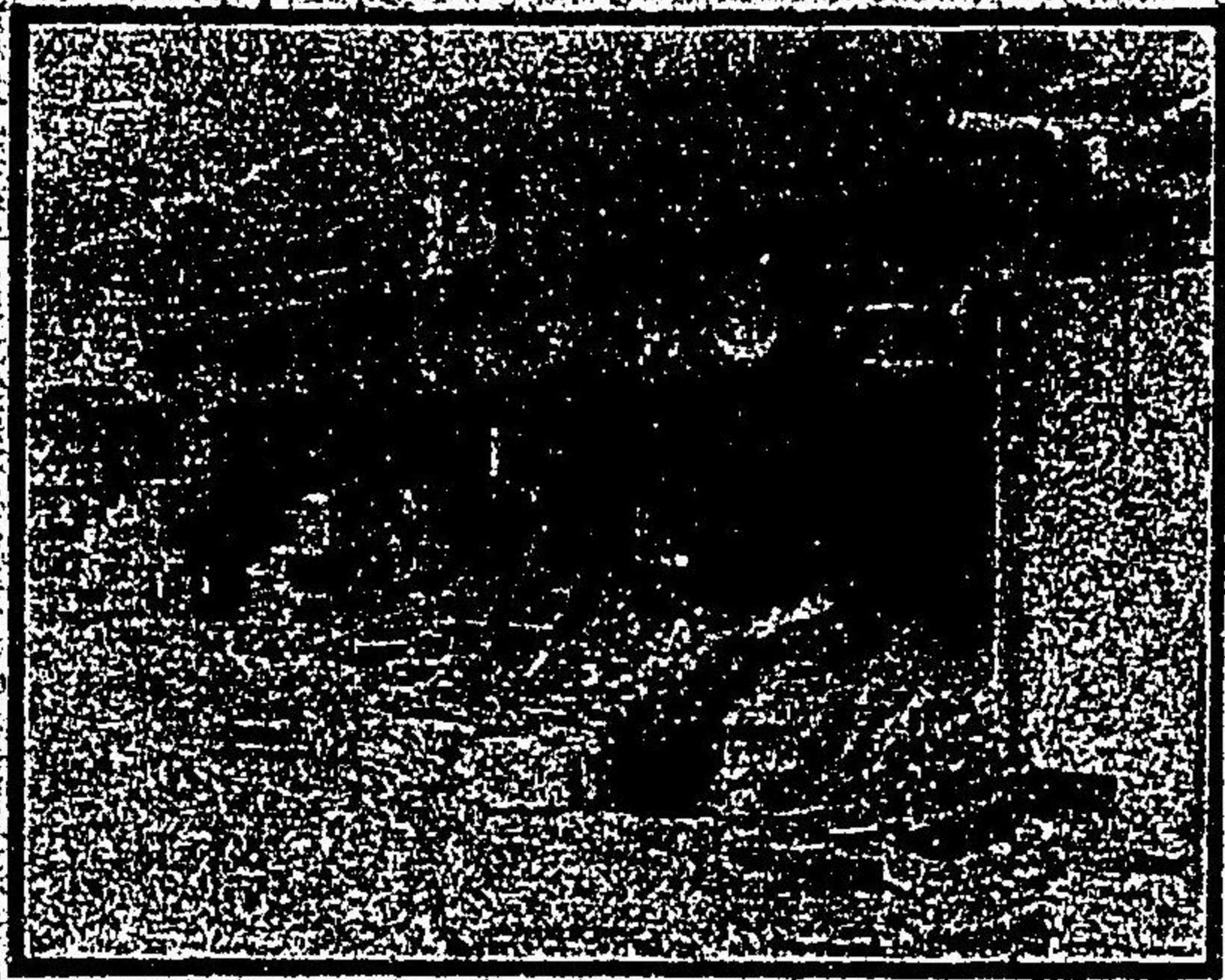
長濱町北船

不二商會

電話一七二番

七十七





青 物 乾 物  
食 糧 罐 詰

近 江 國 長 濱 西 魚 屋 町

眞 下 万 平

(電 話 一 三 八 番)

七十六

營 業 品 目

- 各 國 產 紙
- 文 房 具
- 教 育 用 品
- 和 洋 帳 簿
- 各 種 紙 製 品
- 手 工 材 料
- 日 用 雜 貨
- 內 外 石 鹼
- 大 將 マ ッ チ

弊店儀從來前記目錄ノ通營業罷在候處今回活版部新設仕リ極力勉強可致候間何卒御引立被下度奉願上候 敬白

長濱町北船

不 二 商 會

電 話 一 七 二 番

七十七



漆器銅器佛具  
 諸漆金銀箔飾  
 度量衡器販賣  
**商**

長濱町字北吳服

**治**  
 吉田治平

電話三十一六番  
 振替口座一〇六五番

大譜  
 家書畫  
 依 毫 筆  
 賴 應  
 屏風 襖 軸 物 表 裝  
 參 倉 耕 雲 堂  
 長 濱 相 生 區



美術寫真廣告菓子商

實用新案特許



近江長濱

伊藤商會

今回新案特許ニナリマシ  
タ寫真菓子ハ美味ニシテ  
文花ノ榮ヲ示シ世ノ進運  
ト共ニ諸般ノ廣告ノ代用  
ヲ助ケ一面ニハ種々ノ圖  
畫ヲ寫生シ各位ノ嗜好ニ  
適シ殊ニ雅景娛樂ノ一興  
ヲ添ヘ社會ヲ益スル効果  
ヲ收メ物質ハ永ク異狀變  
色ナキ特徴ヲ保有ス  
江湖ノ諸氏如何ナル物ニテモ御  
菓子ニ寫生印刷ガ御好ニ應ジ出  
來マス故陸續ノ御注文ナク

精牛肉

かしわ

うなぎ

すし

まむし

親子井

ラムレツ

會席御料理

長濱錦町

山月樓

電話四四四番

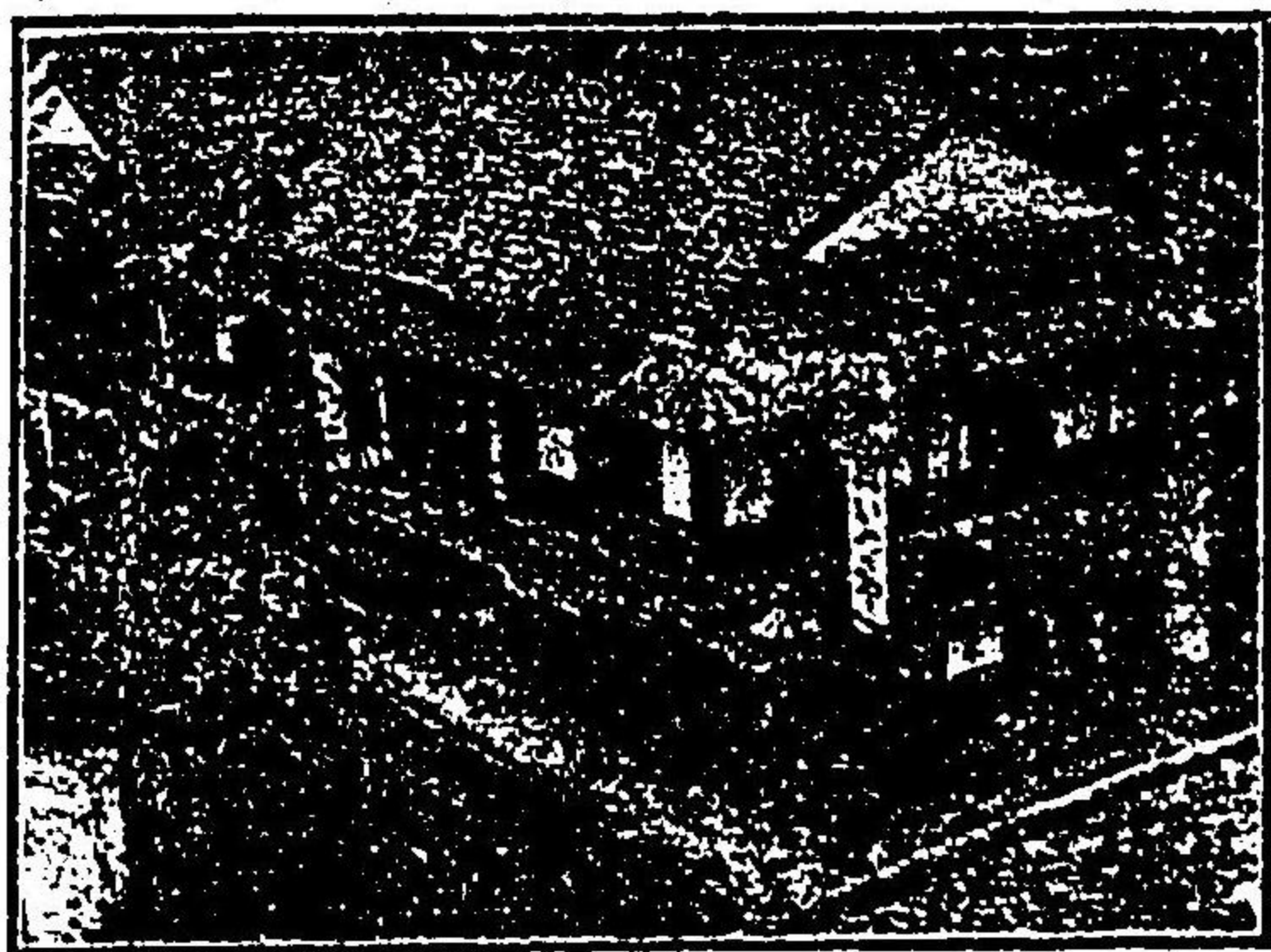


近江長濱

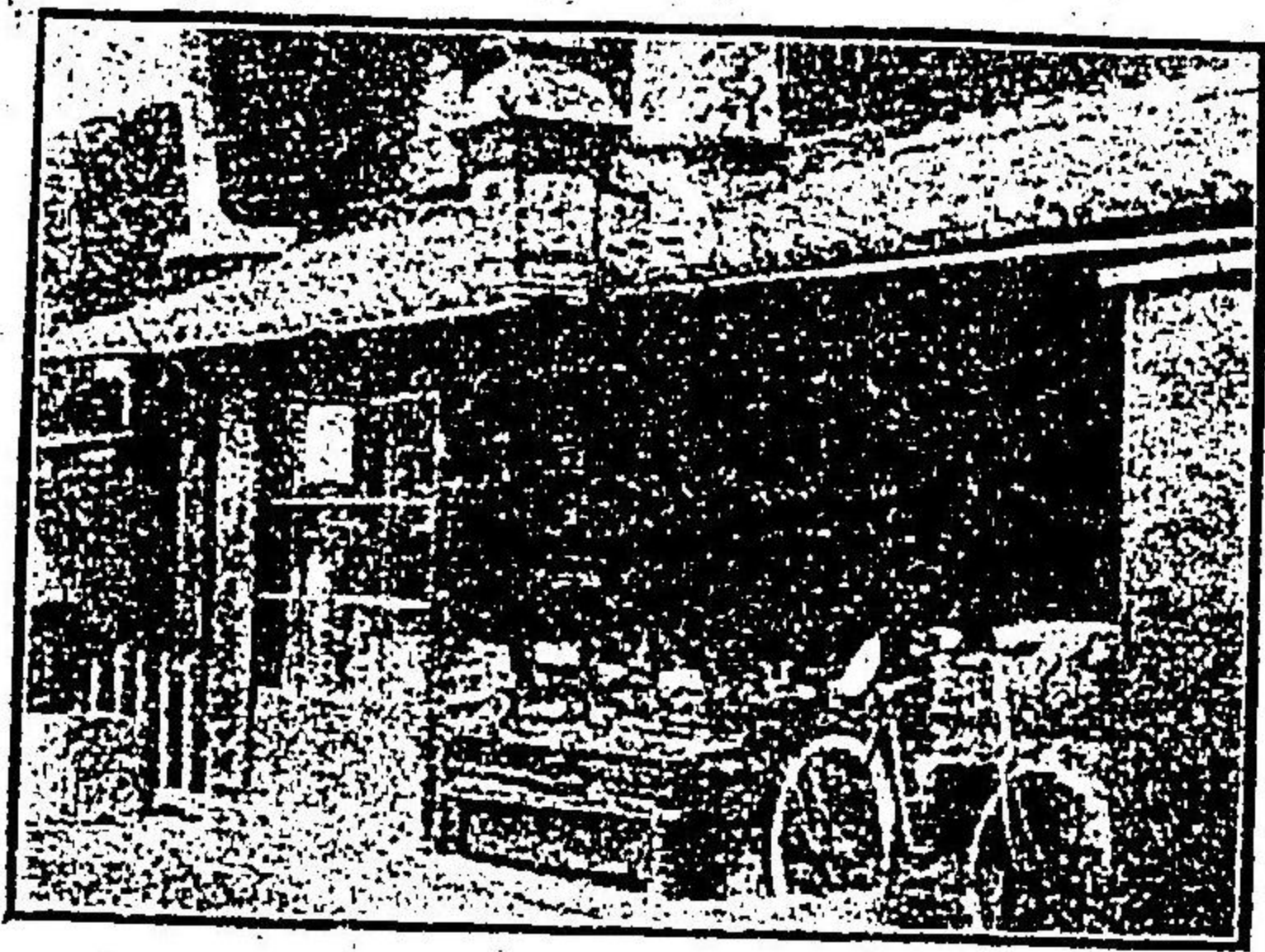
旅館

# 井筒屋

電話二番



八十二



紙文具帳簿製造  
蠶卵原紙鹽元賣捌所

長濱町大字大手

## 三山仁平

電話一六九番

同町

活版印刷 小山活版所

八十三



# 衛生家の福音

無砂米は美味にして衛生上有効搗減少なくして經濟  
 上有利なることは今更申迄もなきことなり弊店今回  
 無砂精米機を利用し精米業を開始致し候間各位御試  
 用あらんことを希ふ

長濱神前町

石田兼吉

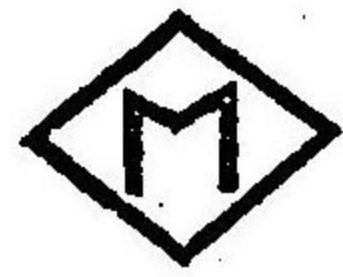
長電二〇五番

清水式無砂精米機販賣近江代理店



洋服ハ  
 米國ミツチエル最新スタイル  
 應用裁縫

長濱祝町



眞杉純逸商店

雜貨ハ最新流行品澤山品揃



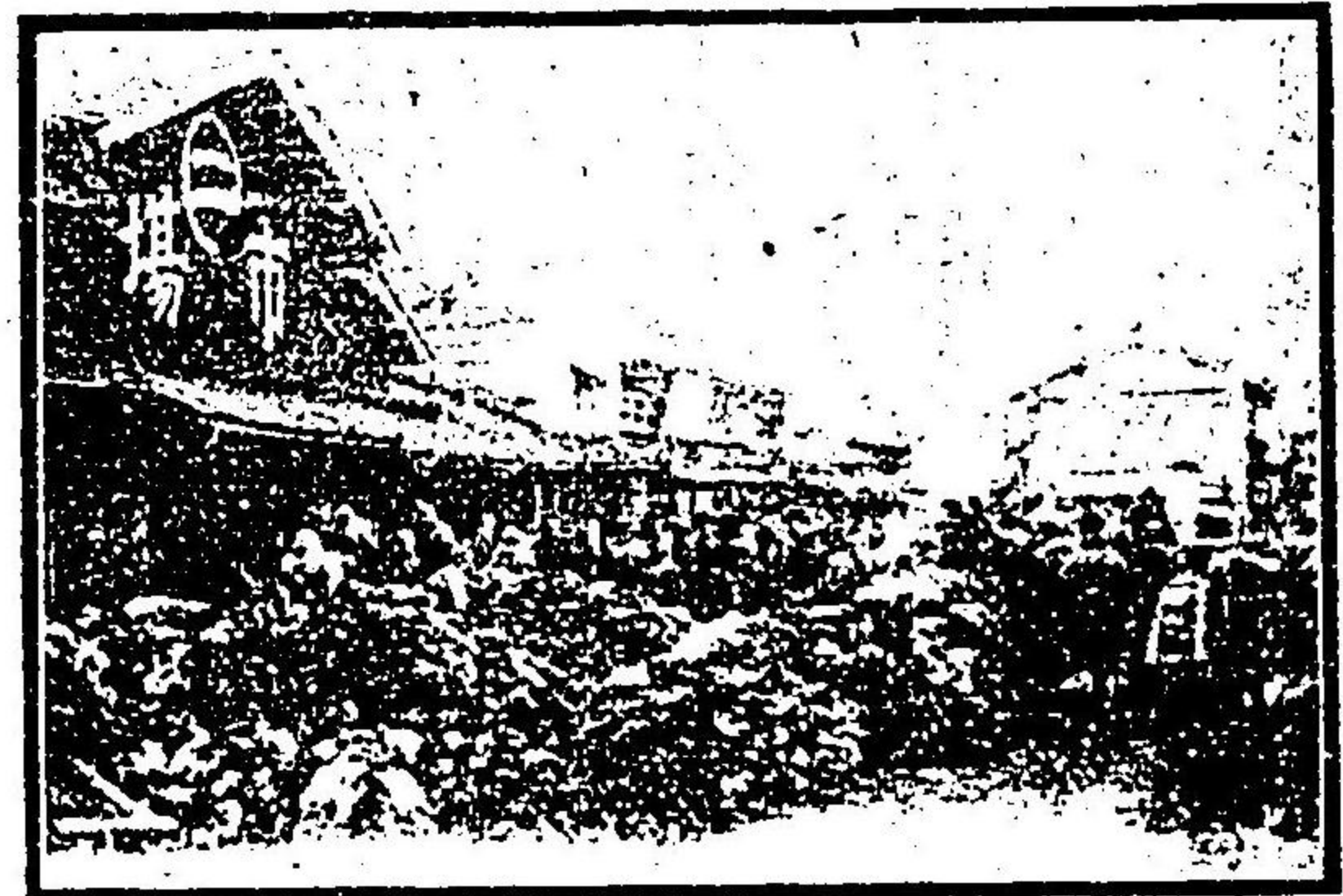
大同生命保險株式會社  
東亞火災保險相互會社

長濱代理店

近江長濱相生

居長八郎平

(商號八)



電話二一九番  
振替口座大阪一〇四八







<p style="text-align: center;">目 課 業 營</p>			
<p>○ 新案 特許 <b>原蠶種製造器</b> 價 定 金拾八號 金拾號 錢</p>	<p>○ 器械 應用 <b>銅真鍮生子ブリキ細工</b></p>	<p>○ 諸官衙學校 建築物洋具 <b>ペンキ塗</b> 及 ニス塗 ボテ込</p>	<p>○ 美術 <b>ペンキ塗諸看板</b></p>
<p>滋賀縣 阪田郡 長濱町 宇南字 吳服</p>			
<p>三 橋 增 次 郎</p>			

八十九

諸 砂 荒  
紙 糖 物  
**商**

長濱町三ツ矢東區

藤 駒

電 器 〇 ア

八十八



御料理

並二

旅館

長濱片町

住吉屋

電話一三六番

眼科専門

阪田郡長濱町字神前(宮町通)

澤田眼療院

電話五十六番



和洋 家具一式

學校用器具

製造販賣

煉氷販賣所

長濱町大手

森 小 三 郎

# 蚊帳

(松月印)

近江國阪田郡

樋口松藏

南郷里村小足

## 天鵞絨織一切

近江 ヲ エルベツト 合會社

阪田郡北郷里村大字石田

ぬいめい



阪田郡北郷里村字石田

### 天鷲絨製織合名會社

電信零號(七)

阪田郡南郷里村字小足

### 濱蚊帳合名會社

### 醫務擔任

● 內科	院長醫學士 太田 有秋
● 婦人科	院主 桐田 謙吉
● 產科	主任 吉田 素兄
● 外科	主任 森田 聰賢
● 醫員	京都醫專醫學士
● 調劑師	主任 長谷川吉馬

## 長濱病院

### 內科<sub>並</sub>兒科診療

滋賀縣長濱町大字錦

### 醫 中居捨吉

電話(長)一四一番

內科

長濱伊部町

診療

南 城 武 平

電話三四



阪田郡長濱永保町(コンヤ町)

眼科  
專門

### 岡田眼科醫院

診察時間午前九時より午後五時迄

外科病一般  
泌尿生殖器病  
皮膚病梅毒科

日曜日休業

長濱町北門前町

河邊 富太郎

診療時間

午前八時ヨリ  
午後四時マデ  
電話一三二番

九十六

●入院 隨意

### 胃腸病專門

滋賀縣阪田郡長濱町神前

### 堤胃腸內科醫院

電話三九番

### 齒科專門

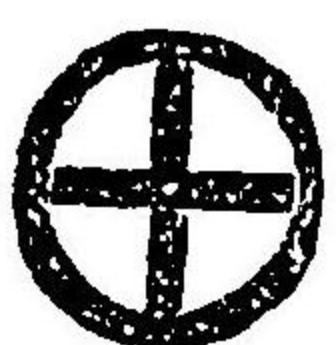
診療時間  
午前八時ヨリ  
午後四時マデ  
每月五日休業  
長濱東本町角

### 岡野齒科醫院

電話五九番

## 生絲 縮緬 商

近江國阪田郡六莊村字室



### 柴田源左衛門

電話一〇二番

京都市三條通堺町東

電話七四二番

### 支店所在地

京都市麴町區平河町四丁目

電話番町六八九番

九十七



貴金屬時計及最新電氣鍍金商

近江長濱東三ツ矢町

西村精光堂

公債株式  
現物

江州長濱町郡上

仲買人 中川喜十郎

電話三三〇番

家森天照堂は信用ある老舗なり



薄利多賣主義の實行者なり

金縁めね傘種貴屬環 銀の各洋指金



# 出版廣告

## 改市制町村制

四六判普通製 袖珍判クロス金  
郵税 八錢 文字入上製一部  
拾貳錢郵税貳錢

本年四月七日法律第六十八號及六十九號を以て改正公布相成たる國民必携のものに有之候今回各位の御便宜を圖る爲め冊子に印刷仕り候に付御購求の程願上候

## 改町村制

袖珍一部五錢  
郵税 貳錢

特に携帶に便する爲め袖珍本として發行仕り候間これ又御購求願上候

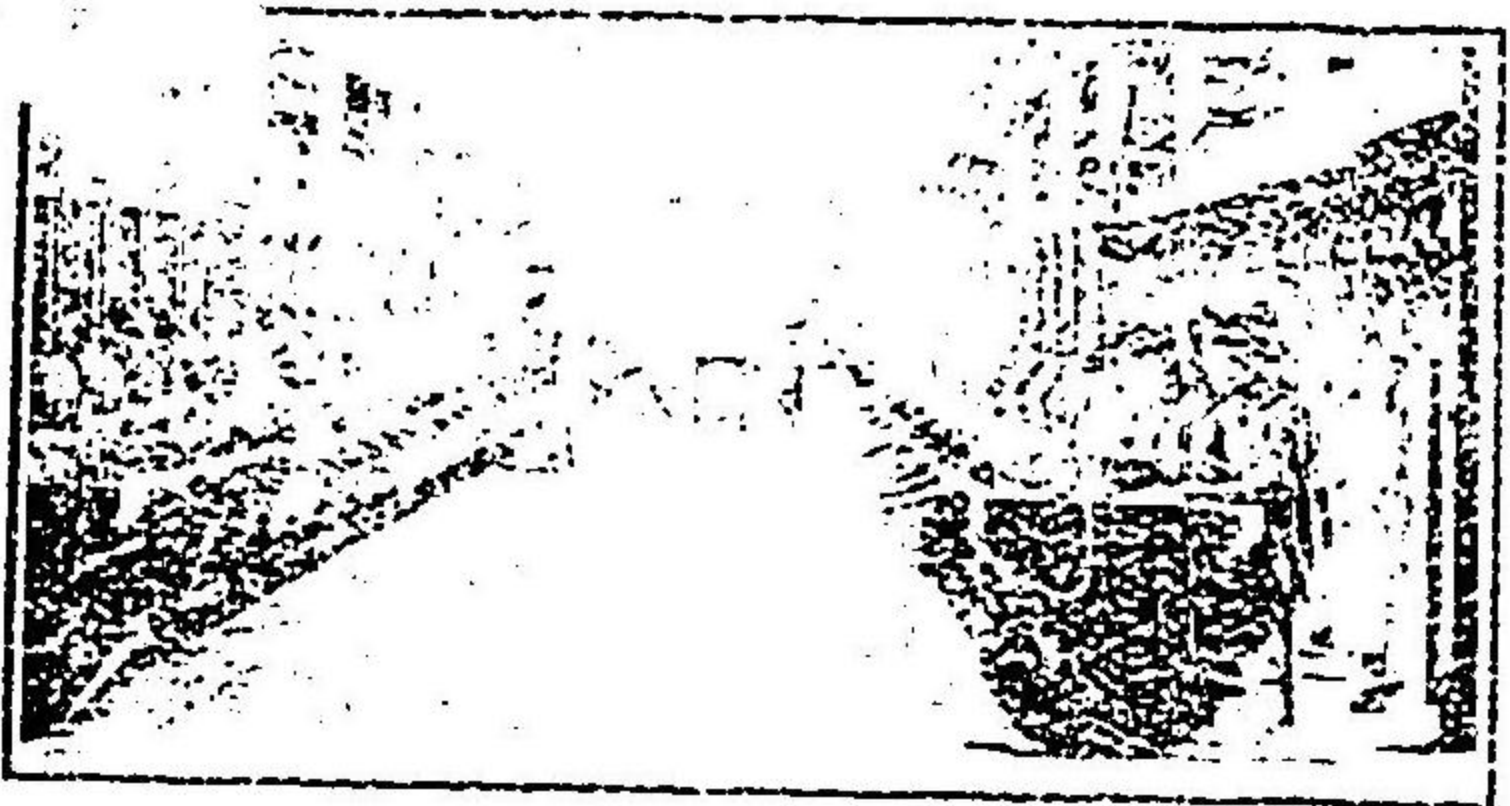
岐阜縣大垣町大字郭

## 發行所

## 西濃印刷株式會社

電話五番

賣捌御望の方は特に割引の御相談可致候間續々御申込被下度候

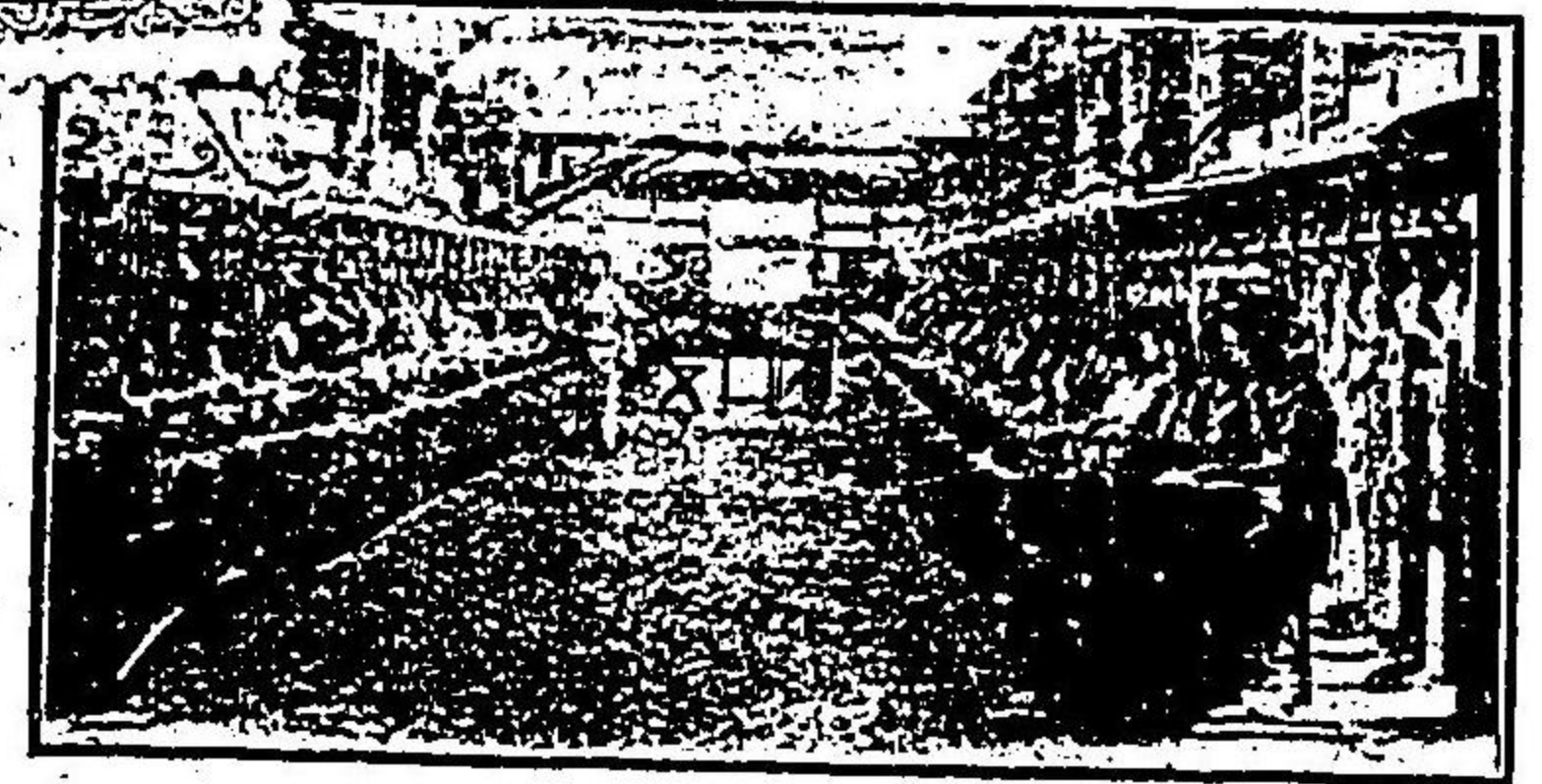


## 近江製絲株式會社

電話九番



82  
517



近江製絲株式會社

長電話九番



洋酒藥種賣藥

卸問屋

滋賀縣長濱町宇伊部

野村源平商店 ㊦

(商號藥)

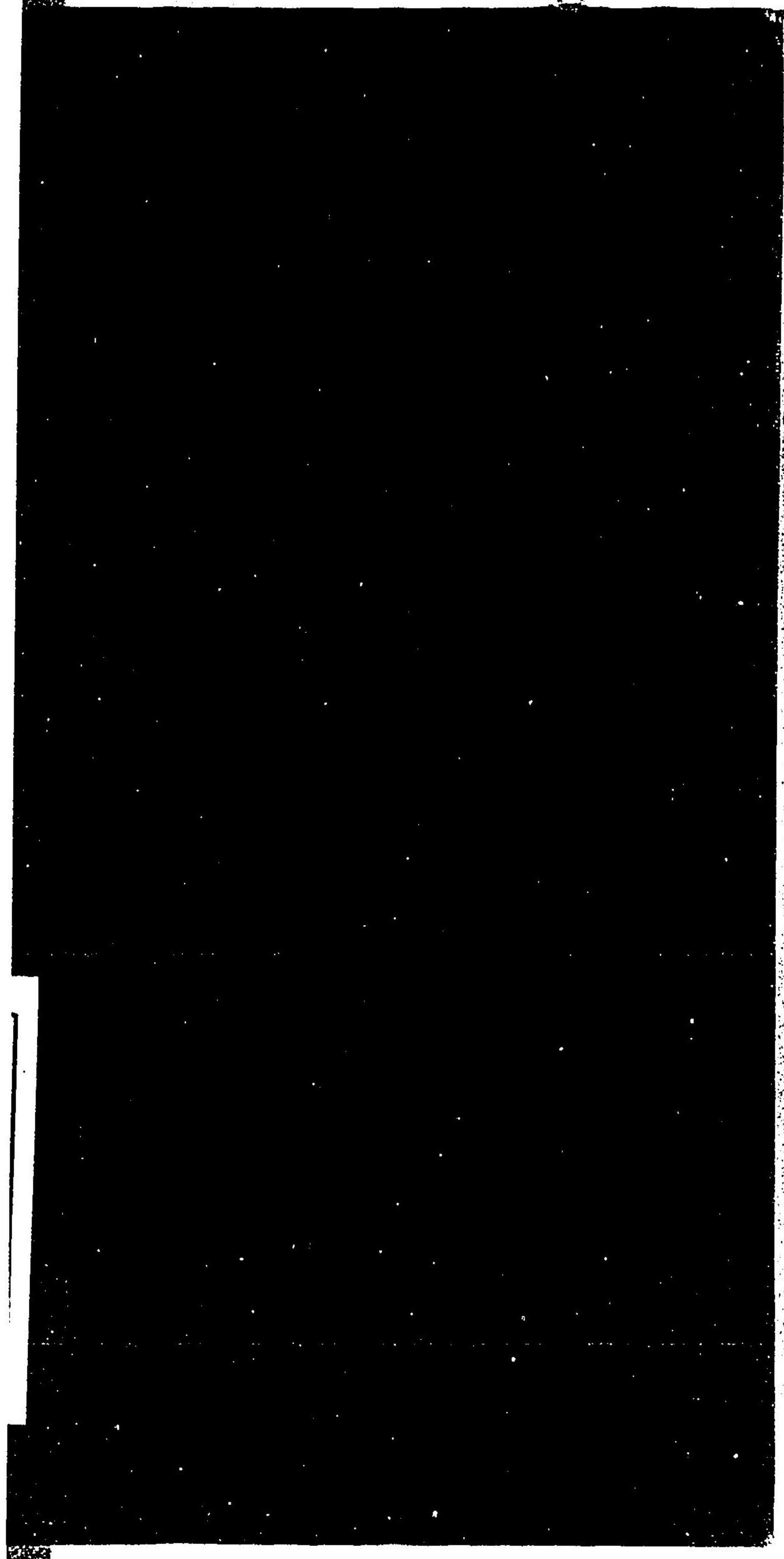
電話二二二番 振替口座(大阪)三九〇番





82
717







82  
717

025558-000-3

82-717

長浜遊覧案内

古橋 憲士/編

M44

ADC-3049





